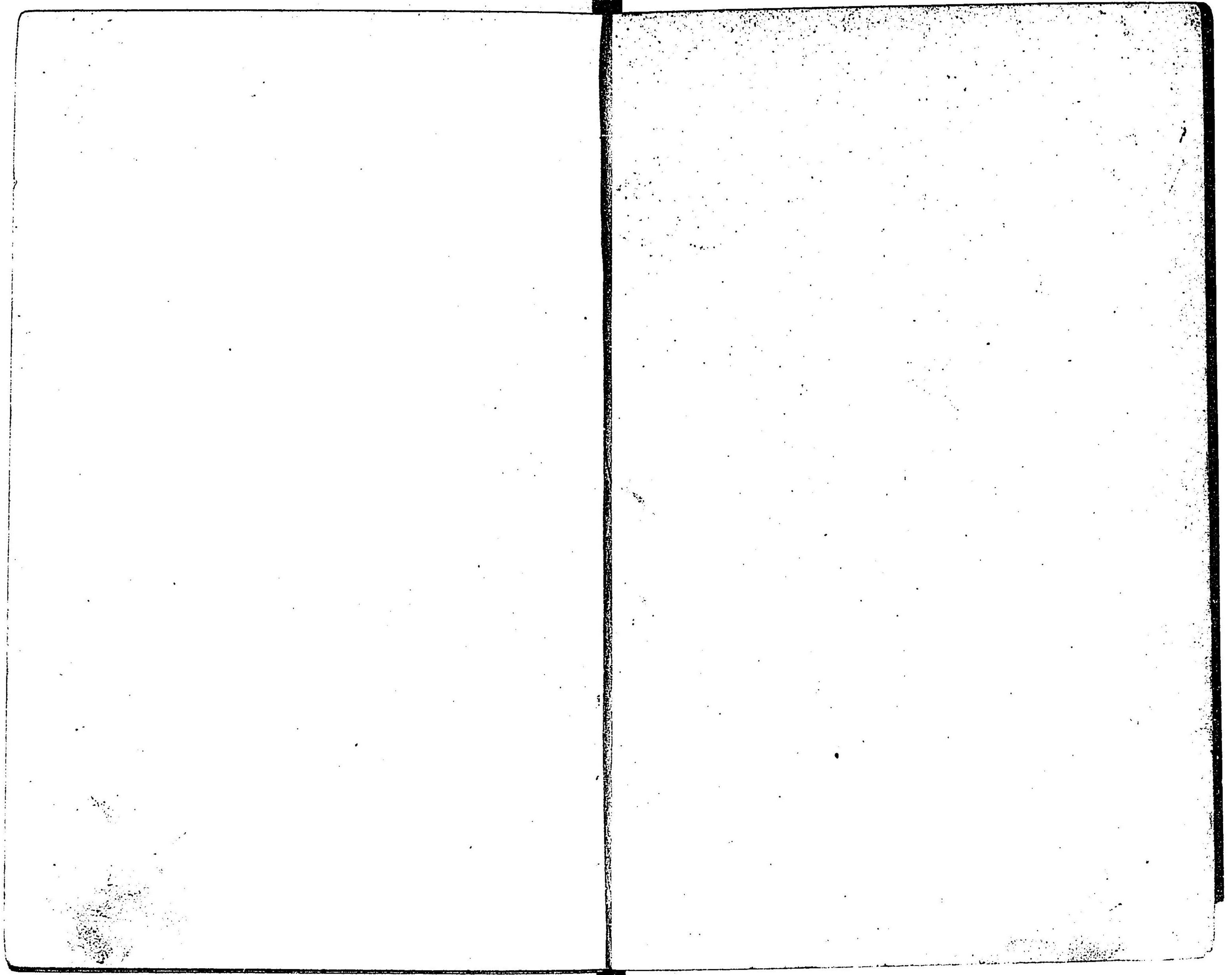


本書ヲ讀ムモノハ

圖日本之部

ヲ必ズ參照スベシ







小川一真製

中等教育
地理教科用書

理學士山上萬次郎編

新撰地理
日本全
之部

東京

合資
會社

富山房

新撰地理 日本之部

緒言

一、余ハ嘗テ新撰日本地理及ビ新撰普通地理日本之部ヲ編述セシガ何レモ廣ク中等學校ノ教科用トシテ世ニ行ハルニ至レリ然レドモ斯學ノ進歩ハ頗ル速ニシテ新事實ノ發見新教式ノ案出アリテ徒ニ舊套ヲ墨守スルヲ許サズニ更ニ本書ヲ編纂セシ所以ナリ

一、本書ハ中學校教授細目明治三十一年文部省編纂ニ準據セリ然レドモ中等學校ノ中比較的下級ニ於テ教フベキ日本地理ニ在テハ地方誌ヲ先ニシテ總論ヲ後ニスベキハ余ノ經驗上其至當ナルヲ確信スル所ナリ故ニ此點ニ於テハ文部省ノ細目ニ依ラズ但シ始メニ汎論ヲ加

へ終り、ニ結論ヲ附シ、以テ首尾ノ貫通ヲ計リタリ

一、地方誌ノ編述ニハ旅行體ト畿道別體トアリテ兩體共ニ得失アリ依テ今コレヲ折衷シタル一種ノ新案ヲ用ヒタリ

一、歷史上及ビ産業上ニ特ニ重キヲ置キタリ

一、本書ハ可成説明ヲ簡ニシ教師ヲシテ敷衍講說セシムルノ餘地ヲ存セリ而シテ地方誌各部ノ總論ハ交通ヲ以テ概括シ特論即チ各府縣誌ハ産業ヲ以テ概括セリコレヲシテ單ニ地名物産ノ素讀ニ止マラズシテ充分趣味アル演習メヲシメントハ一ニ是ヲ當局者ノ技倆ニ待ツ一、本書ハ可成材料ヲ豊富ニシ以テ一方ニ於テハ各府縣師範學校ノ教科用タルヲ得シメタリ故ニ中學校ニ於

テ本書ヲ教フルニ當リ時間ニ比シテ材料ノ過多ヲ憂フルノ人ハ後編總論中細字ヲ以テ記述セル部分ヲ省畧スベシ

一、本書ヲ用フルノ人ハ必ズ^等新撰地圖日本之部ヲ用フベシ該圖ハ本書ト關係セルモノニシテ大ニ考慮ヲ費シ頗ル特色アルハ余ノ特ニ明言シテ憚ラザル所ナリ本書ヲ用フテ充分ノ效果ヲ奏センニハ常ニ該圖ヲ參考セシトテ要ス而シテ其用方ハ該圖ノ緒言ニ是ヲ述ベタリ

一、北海道地名ノ假名ニ就テハ神保博士琉球ノ地名ニ關シテハ黒岩恒氏ノ指教ヲ煩シタリ又地方廳ノ調査日本水路誌等ニヨリテ嚴原ノ假名ナイヅハヲト改メタル等ノユトハ一々爰ニ掲ゲズト雖モ是等修正ノ材料ヲ附

與セラレタル諸氏ニ對シテ爰ニ感謝ノ意ヲ表ス

一、羽前ノ三山中湯殿山ハ山ト稱スベキモノニ非ズ要スルニ三山鼎立ト云ヘルハ不可ナリトノ新説ヲ佐川理學士ヨリ得タリ故ニ正誤ニ於テ之ヲ修正シタリ又三宅由太郎、小野多平、加藤庄三郎ノ三氏ハ本書ニ對シテ自己教授上ノ經驗其他ノ注意ヲ與ヘラレタルコト一ニシテ足ラズ特ニ小野、加藤ノ二氏ハ校正上少カラザル勞ヲ執ラレタリ今爰ニ記シテ其厚意ヲ謹謝ス

一、本書ノ缺點ヲ指摘シテ余ニ指示セラレンコトハ斯學教授當局ノ人士ニ對シテ余ノ切望ニ堪ヘザル所ナリ

明治三十二年二月

山上萬次郎識

中等新撰地理 日本之部 目次

汎論

前篇 地方誌

第一章 中區の東部

區域……………六

山系……………六

水系……………一〇

沿岸……………一四

交通……………一九

東京府……………二二

埼玉縣……………二四

神奈川縣……………二五
 千葉縣……………二八
 茨城縣……………三〇
 栃木縣……………三二
 群馬縣……………三四
 福島縣……………三五
 宮城縣……………三七
 岩手縣……………三九
 青森縣……………四〇
 秋田縣……………四二
 山形縣……………四四
 新潟縣……………四五

第二章 中區の西部

長野縣……………四八
 山梨縣……………五一
 産業……………五四
 區域……………五七
 山系……………五七
 水系……………六一
 沿岸……………六八
 交通……………七四
 静岡縣……………七七
 愛知縣……………八〇
 岐阜縣……………八二

三重縣……………八四

和歌山縣……………八七

德嶋縣……………八九

高知縣……………九〇

宮崎縣……………九二

鹿兒嶋縣……………九四

熊本縣……………九六

長崎縣……………九九

佐賀縣……………一〇一

福岡縣……………一〇二

島根縣……………一〇五

鳥取縣……………一〇七

福井縣……………一〇九

石川縣……………一一一

富山縣……………一二二

滋賀縣……………一二四

京都府……………一二五

奈良縣……………一二九

大阪府……………一三〇

兵庫縣……………一三三

岡山縣……………一二六

廣嶋縣……………一二八

山口縣……………一三〇

大分縣……………一三三

愛媛縣.....一三三

香川縣.....一三五

産業.....一三七

第三章。北區.....一四三

北海道本嶋(北州).....一四三

區域.....一四三

山系.....一四三

水系.....一四六

沿岸.....一四八

交通.....一五一

東南部(太平洋斜面區域).....一五二

東北部(オユツク海斜面區域).....一五六

西北部(日本海斜面區域).....一五七

千嶋列島(千島國).....一五九

産業.....一六三

第四章。南區.....一六五

琉球群島(沖繩縣).....一六五

臺灣.....一六八

區域.....一六九

山系.....一六九

水系.....一七一

沿岸.....一七三

氣候.....一七四

人種.....一七五

交通……………一七七

 北部(臺北縣 宜蘭廳)……………一七七

 西部(臺中縣 臺南縣)……………一七九

 東部(臺東廳)……………一八〇

 澎湖群島(澎湖廳)……………一八一

 產業……………一八三

後篇 總論……………一八五

第一章 天然地理……………一八五

 位置……………一八五

 境界……………一八五

 廣袤……………一八六

 海岸線……………一八六

 港灣……………一八七

 海峽……………一八八

 島嶼……………一八九

 半島……………一九〇

 岬角……………一九一

 地勢……………一九三

 山系……………一九四

 水系……………一九六

 氣候……………一九九

 天產……………二〇三

第二章 住民……………二〇六

種族……………二〇六

人口……………二〇七

教育……………二〇九

美術……………二一一

宗教……………二一一

第三章 政治……………二二四

政體……………二二四

區劃……………二二六

兵備……………二三一

外交……………二二七

第四章 生業……………二三〇

山林業……………二三〇

牧畜業……………二三〇

水產業……………二三一

農業……………二三三

鑛業……………二三三

工業……………二三四

商業……………二三六

交通……………二四〇

結論……………二四六

一六八	上段	波照間	二四〇	第一行「朝鮮」以下第三行「那覇」に 至る三十七字は
一六九	五	「二條の」の三字を省く	一〇〇三	第二四〇頁「五港なり」の次に入れか へる
一七一	二	せる	八	達す
一七三	二	泊する		達せり
一七四	五	出入積		
一七八	一	東北風を		
一七九	七	特別輸出入港		
一八〇	六	特別輸出入港		
一九六	八	特別輸出入港		
二〇四	七	世界		
二〇四	八	山頂		
二〇四	一	羅漢松		
二〇四	二	北方には		
二〇四	二	減じて		
二〇七	一三	民庶		
二〇八	一〇	東山道		
二四〇	一三	イギリス		
二四〇	一三	イギリス領		
二九	八	第二旅團司令部		
七五	一	熊本		
二二九	一	せる		
二三七	一	イギリス		
二四〇	一三	イギリス領		

追加

中等新撰地理 日本之部

理學士 山上萬次郎編

汎論

我大日本帝國はアジア洲の東方、太平洋の西北部にある島國にして、本州、北海道、四國、九州及び臺灣の五大島と、數多の島嶼とより成り、東北より斜に西南に亘る、千島と臺灣とは其兩端なり。

千島と千島海峽を隔て、相對するは、ロシア領カムチヤツカにして、北海道と、宗谷海峽を挾むは、ロシア領樺太島なり。支那帝國と朝鮮帝國とは、西方に當り、日本海及び支那東

位置

四隣

汎論

海によりて隔てられ、臺灣とスペイン領のフィリッピン諸島とは、バシー海峽によりて分たる。

我國は延長凡一千二百五十餘里、面積凡二万七千六十万里にして、崑崙樺太の二大山系相連り、地體の大勢を定む。

崑崙山系は西南より樺太山系は東北より來り、其相會するところは、富士帶火山脈之を貫けり。火山脈は、甚だ多く、其大なるものは、富士帶火山脈の外に、北に千島帶火山脈、南に霧島帶火山脈あり。活火山亦少からず。

我國は地形狹長にして、山脈中央に連り、海洋に向ひ傾斜するを以て、自ら五箇の地域に分たる。即ちオホツク海斜面區域、日本海斜面區域、支那東海斜面區域、太平洋斜面區域及瀬戸内海斜面區域にして、何れも甚だ廣大ならざるが故に、

山系

斜面

河流概ね短小にして、灌漑至て狹し。然れども山脈に沿ふて流るゝものは、稍長大にして、灌漑交通共に便なり。

我國は面積に比し海岸線頗る長く、北にオホツク海、西北に日本海あり、これに瀕せる北海道及本州の沿岸は屈折少く、港灣稀なり、西は支那東海にして、東は廣大なる太平洋なり、これに臨める臺灣及四國の海岸は、出入多からざれども、九州及本州の沿岸は屈曲甚しく、港灣に富む。

かく我國は四周海を繞らすにより、頗る運輸交通の便あり。東は遙にアメリカ洲に至るべく、南はオセアニア洲、西は遠くヨーロッパ洲に達すべし。

臺灣の南部は熱帯に入り、千島の北部は寒帯に近きを以て、極寒極暑の差尠からず。雖も國の大部分は温帯中にある。

沿岸

交通

氣候

りて、且海水に圍まるゝを以て、概ね寒暖中和を得、又風色頗る佳なり。

我國は地味肥にて農産物甚だ多く、領海廣くして、水産物に富む。鑛物は各種殆んど産せざるこなく、製造業日を追ふて盛なり。

我國の人口は凡四千五百餘万にして、世界中人口稠密なる國の一なり。

我國は開關以來他國の侵畧を蒙らず、一種特別なる國體をなす。政體は古來多少の變遷ありしが、近年外國と交通を開き、百事改進するに當り、政體亦一變して東洋唯一の立憲君主制を採り、國勢日に益盛んなり。

産業

人口

國體及政治

前篇

地方誌

我國(琉球及臺灣を除き)を五畿八道に大別し更に八十五國に小分す、今便宜上全國を左の三區に分つ。

- 一。中區……………本州、四國及九州。
- 二。北區……………北海道本島及千島。
- 三。南區……………琉球及臺灣。

我國は畧ほ三箇の弓形をなし、本州、四國、九州其中央にあり。北海道、千島列島北に連り、琉球諸島、臺灣南に接す。中央の三大島は地勢大率同一にして、崑崙山系に屬する山脈西より來り、樺太山系に屬する山脈北より走りて、本州の中央に

接合す。此處に富士帶火山脈横はり、其兩部は數多の著しき差異あるを以て、中區を更に

- 一。中區の東部……………富士帶火山脈以東の府縣。
 - 二。中區の西部……………富士帶火山脈以西の府縣。
- に分ちて記述せんとす。

第一章

中區の東部

區域

(區域)

東京府、埼玉縣、神奈川縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、群馬縣、福島縣、宮城縣、岩手縣、青森縣、秋田縣、山形縣、新潟縣、長野縣、山梨縣、

山系

(山系)

本部の山脈は所謂^{山系}嶺南系に屬し、大別して三派

其一

となし得べし。其一は本州の東北馬淵川口より起り、北上川の東側を南走し、陸前に入り、牡鹿半島となり、有名なる金華山に至り、斷絶する所は即仙臺灣にして、再び阿武隈川口の南に隆起し、山勢漸く屈曲して、内地に入る。

北上山脈には早池峰あり、阿武隈山脈には、八溝山、築波山あり。關東山脈には著しき高峯なし。雖も秩父山彙、小佛峠等其名を知らる。

其二

其二は最も火山に富める一大山脈にして、本州東北部の中央を一直線に南走し、漸次内方に彎曲し、那須岳より西に折れて、岩代下野の國境を通過する帝釋山脈となり、更に進みて三國山脈となり南走す。此大山脈は東北諸州の分水界をなすを以てこれを分水山脈と稱す。

分水山脈には恐山、八甲田山、岩手山、藏王山、森吉山等の高峯あり。岩代に入り、明治二十六年五月破裂せし吾妻山、全二十一年七月大破裂せし磐梯山、下野には那須岳、男體山（八千二百尺）上野には赤城山、榛名山、妙義山等あり。信濃、上野の界なる白根山、四阿山より富士帯に接す。

其三

其三は分水山脈と並行し、日本海に瀕して、南走する火山脈なり、然れども此火山脈は、連綿たる山脊をなさずして、屢斷絶せらる。

陸奥の岩木山を起點とし、鳥海山（七千尺）月山となり、飯豊山を経て、分水山脈に結合す。此山脈は兩羽より越後に連るを以てこれを羽越山脈と稱す。

羽越山脈の西北に並行して、噴起せる小火山脈あり。羽後

富士帯

の男鹿半島より、越後の彌彦山、米山を経て富士帯に接す。

富士帯は遠く南洋諸島より、硫黄島、小笠原島を経て、豆南諸島に至り、大島の三原山を起し、伊豆半島に渡り、天城山、箱根山を過ぎ富士山を経て、八岳、妙高山、焼山に終る。

信濃の東北部は富士帯に連り、關東八州との境界をなす、淺間山（八千二百尺）は此脈中にある大火山なり。西方飛驒、越中諸國との間にある山脈は、所謂飛驒山脈にして、本州中最も高隆の地なり、鎗岳及乗鞍岳、其中に聳ゆ、乗鞍岳は其高さ一万〇四百尺、富士山に次ぐ秀峯にして、御岳は其南に峙つ。木曾山脈は國の中央より、天龍、木曾兩川の間を、西南に連れる山脈にして、駒岳最も高し。

甲斐の西部には赤石山脈に屬する駒岳（九千九百尺）地蔵

岳、七面山、身延山等連續し、東部には關東山脈に屬する諸山あり。南境に富士、北境には八岳ありて、地勢險峻、自ら別天地をなす。

水系

太平洋斜
面區域

(水系) 本部は其中央を貫通する分水山脈によりて、太平洋斜面區域と、日本海斜面區域とに兩分せられ、河流は何れも此山脈より發して、太平洋と日本海とに入る。太平洋斜面區域は分水山脈の那須岳と、阿武隈山系の八溝山とを連接する一連の低山脈によりて、更に南北に二分せらる。以南は即關東の平野にして、三國山脈に發する利根川、東南に向ひて流れ、關宿にて江戸川を分派し、本流は鬼怒川と會して、銚子口に注ぐ、長さ七十三里、舟楫灌漑の便極めて多し。其西には荒川(下流を隅田川といふ)多摩川、馬入川あり。其東には

那珂川あり、皆東南に流れて、太平洋に入る。

關東の平野は本邦第一の平野にして、地味肥沃、農業に適せり。隅田川の河口に帝都東京あり。

利根川の灌漑には前橋、高崎、宇都宮、栃木、佐倉、銚子等の名邑多く、下流は霞浦(周回三十六里)北浦と通じ、其南方に手賀沼、印旛沼(周回十二里)等あり。

中禪寺湖は下野日光山中にあり、周回八里にして、海拔四千三百尺、風景頗る佳なり。

富士山の北麓に山中湖あり、其西方に河口湖、西湖等相連る。

八溝山以北の太平洋斜面區域は即ち北上、阿武隈兩大川の灌漑にして、奥の平野とにあり。北上川は分水山脈に發

し、南流すると六十里、阿武隈川は白河近傍に發し、北流する
こゝ五十里、共に仙臺灣に注ぐ。仙臺市は此兩河口を連接す
る沿岸の平地にあり。馬淵川も亦分水山脈に發し、北流して
海に入る。

奥の平野は地味概ね豊饒にして、米穀、生絲の産地なり。
北上川の上流には盛岡あり、中流には一關、河口に石巻港
あり。阿武隈川の上流に白河、中流に福島あり。

小河原沼は陸奥にありて、周回十三里餘。十和田湖(周回十
里亦陸奥にあり、陸前には品井沼(周回五里半)を初とし、數多
の湖沼あり。

日本海斜面區域は海岸に近く、火山脈走れるを以て、太平
洋斜面區域の如き河系を成さず。唯越後の平野には本州第

日本海斜
面區域

一の長流、信濃川及阿賀川あり。信濃川は信濃の東境に發し、
長野の東にて犀川を合せ、東北に貫流す。全長八十八里、河口
に新潟港あり。阿賀川は岩代日橋川の下流にして、信濃河口
に近く海に入る。

信濃の中央には富士帶及飛驒山脈の餘脈、蟠結して自ら
分水界をなし、天龍、木曾の二川を南方太平洋斜面區域に、千
曲川及犀川を北方日本海斜面區域に向はしむ。

越後の平野は日本海沿岸唯一の大平野にして、長さ殆ん
ど四十里に亘り、地味膏腴最も米穀に適し、越後二百萬石の
稱あり。犀川の灌域には松本あり、其近傍を松本平と稱し、長
野の近傍と共に、全國屈指の養蠶地なり。

諏訪湖は和田峠の西南にあり、周回四里にして、海拔二千

六百餘尺なり、天龍川は其源をこゝに發す。

猪苗代湖は岩代にあり、所謂會津諸郡の中央にして、周回十六里、其水流れて日橋川となり、越後に入りて阿賀川となる。

越後平野の北方に最上川、御物川、能代川あり、皆沿岸火山脈の間を横斷す、獨り岩木川は陸奥の南境に發して、山脈に沿ひ、北流して海に入る。

諸川の灌域は何れも地味肥沃にして、農産地の名あり。米澤、山形は最上川の沿岸にあり、秋田は御物川に臨み、能代は能代川の口を占め、弘前は岩木川の灌域にあり。八郎潟は羽後にあり、周回十五里、男鹿半島突出してこれを抱けり。

沿岸

本州の東海岸、犬吠崎以南は、岬灣頗る多く上總

沿岸

の大東崎に至る沙濱は、九十九里濱と稱し、全國中漁業の最も盛なる處なり。安房の野島崎を廻れば、即東京灣にして、東に房總半島の富津崎あり、西に三浦半島の觀音崎あり、相對して其口を扼す。三浦半島の西は相模洋にして、陸地に近く江島あり、南方遙に大島の火山を望むべし。

東京灣は南北殆んど十三里にして、江戸、隅田、多摩の諸川これに注ぐ、灣内には東京を始とし、横濱、横須賀、木更津等の諸港あり。

相模洋の沿岸には鎌倉、大磯、小田原、熱海等の名邑勝地あり。

大島の南に利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島あり、以上を伊豆の七島といふ。御倉島と八丈島との間には、日本海

流の最も急駛なる處あり、黒瀬川と稱するものこれなり。
小笠原島は伊豆七島の南にあり、凡そ三百年前、小笠原貞頼の發見せし島にして、父島、母島最も大なり。地味一般に豊饒にして、牧畜耕作に適し、漁獵の利多し。其南方に硫黃島あり、明治二十四年我版圖に入る。

大島は東京を西南に距ること三十二里なり、昔源爲朝の配流せられし所にして、島民は多く漁獵に従事す。八丈島は八丈絹を以て名高く、海産物も尠からず。

小笠原島は熱帯に近接し、寒暑の差甚しからず、且海より風常に吹きて盛夏と雖も攝氏三十五度を超ゆること稀なり、冬期は内地の春暖に異ならず。信天翁、大蝙蝠、椰子、鳳梨等の動植物あり。

犬吠崎以北の海岸は大なる彎曲稀にして、良港少く、唯中央に一の仙臺灣あるのみ。北上山脈の海岸に迫るところは屈折鋸齒の如く、釜石、宮古の二港あり。北端には斗南、津輕の二大半島ありて、陸奥灣を擁し、斗南半島には尻屋岬、大間岬あり、津輕半島に龍飛崎あり、共に津輕海峽を隔て、北海道に對す。

仙臺灣は牡鹿半島の西に位し、灣内に荻濱、石巻、野蒜の諸港あり。松島、鹽竈は此灣内の名勝なり。

陸奥灣の北部には大湊あり、中央に夏泊崎突出して、東を野邊地灣といひ、西を青森灣と云ふ。野邊地、青森の二港は各其灣頭にあり。

日本海沿岸は地形簡單にして、屈曲に乏しく、獨り羽後の

男鹿半島の突出して、八郎潟を擁するのみ。佐渡は日本海中にある孤島にして、形恰も分銅の如く、有名なる鑛山を有す。飛鳥は羽後の海上にある火山島なり。港の重なるものは兩羽に能代、土崎、酒田あり。佐渡に小木、夷あり。越後には信濃河口の新潟と直江津とあり。

四ノ井
土佐八

交通

(交通)

關東諸國は往昔政權を握りし武將の割據せし地にして、天然の要害を恃みて、往來の便を圖らざりしが、徳川氏に及び、諸侯の參勤街道に當れるところのみは、大率修理し、維新の際、帝都を東京(江戸)に奠められて、大に道路を改修し、航路を擴張し、交通の便なること全國に冠たるに至れり。

鐵道は東京を中心として、東海道を貫通する東海道鐵道、中仙道に入り陸奥に向ふ東北鐵道、甲武兩州を連絡せんとする甲武鐵道、東京より下總に至る總武鐵道等を主として、數多の支線を有し、航路は横濱を起點として、西は神戸に至り、北は函館に達す。

然れども奥羽、越後並に信濃地方は、從來土地の偏僻なり

しと、山脈の連亘せるに由り、頗る世の進歩に後れ、道路甚
た險悪なりしが、近來日本鐵道會社の東北線は青森に達し、
又官設の鐵道は青森より弘前を経て碓關に通ぜり。

中仙道線は東京より前橋に至り、官設鐵道は高崎より有
名なる碓氷峠を越へて、信濃を過ぎ、越後の直江津に及ぶ。此
他支線數條ありて、其線路に沿ひたる地方は、大に交通の便
を得れども、否らざる地方は不便尙甚し。

日本海沿岸は馬關、小樽間の航路に當り、稍通商の便を受
くれども、冬季は波荒く、舟人の大に戒心するところなり。

東京府

東京府

は東京市の外、武藏の内八郡、伊豆の内伊豆
七島、及小笠原島を管轄す。府廳は東京市にあり。

東京市（人口百四十万七千）は關東八州の中央、武藏に
ありて、隅田川其東部を貫流す。南は東京灣に臨み、東北西の
三面は平野遠く連り、地勢極めて平坦なり。市の東西凡三里、
南北凡四里にして、宮城は其中央に位し、地區最も高潔にし
て、繞らすに溝渠を以てす。

本府郵務部、東京府警備隊、東京府立第一師團司令部

中央政府の諸官省、立法、司法の府、近衛師團、第一師團司令
部、東京帝國大學等皆こゝに集る。主要の通路には馬車鐵道
の設ありて、車馬の往來織るが如く、電信機、電話線は蛛網の
如し。

驛路は所謂四宿の地を経て四方に通ず、千住よりするも

のを奥羽街道といひ、下板橋よりするものを中仙道といひ、東海道は品川より、甲州街道は内藤新宿よりす、故に四方の物貨、殊に關東八州、中仙道及奥羽地方の物産は一旦此地に輻輳し、商業交通極めて盛なり。

本市の物産は織物、燐寸を始とし、錦繪、鼈甲細工、蒔繪細工、其他の工藝品なり。

此市は古の武藏野にありて、太田道灌始めて此地に城を築き、其後徳川氏又覇府を此地に開き、名を江戸と改めてより、日に益々繁昌を加へ、明治二年聖駕蹕を此に駐め給ひし以來、更に舊觀を改め、大帝國の首府たるに愧ぢざるに至れり。

全市を麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區に分ち、更に地勢に従ひて

山手、下町に大別す、山手には貴族富豪の邸宅多く、下町は商業の最盛なる所とす、市内に上野、淺草、芝、深川等の公園ありて都人士の遊覽に供ふ。

東京の西、甲州街道に八王子あり、生絲及絹織物を以て名あり。青梅は其北にあり、秩父産石灰の本場にして、又綿を産す。

東京より横濱に赴く間に、多摩川の下流六郷川を渡る、此川は多く鮎を産す、矢口、渡は此川の沿岸にありて、新田義興の死せし所なり。

多摩川は武藏の西部を通過して、東京灣に入る、八王子の東北、羽村より其水流を引き、東京市民の飲料に供す、多摩川上水これなり。

埼玉縣

埼玉縣

三四

埼玉縣 は武藏の内九郡を管轄す。縣廳は浦和町にあり。

浦和町 は東京の西北六里にありて、東北鐵道線路に沿ひ、木綿織物の産あり、人口七千に及ばず、北に大宮ありて、公園は遊覽に宜し、鐵道は此地にて左右に分れ、左するものは中仙道鐵道となり、右するものは東北鐵道となる。東北鐵道により、栗橋を過ぐれば、利根川流れて、茨城縣の境をなす。

大宮より中仙道鐵道によれば、熊谷に達す、熊谷直實の墳墓ここにあり。此地の西方荒川の水源地方は、秩父地方と稱し、武甲山(四千三百尺)三峯山等聳えて、良材に富み、秩父絹を産するを以て著はる。川越は此地方の一商區なり。

荒川は源を秩父地方に發し、川越の東を過ぎ、東南流して海に入る、長さ三十餘里、關東第二の大河なり、秩父地方の木材を東京に出すには、此河流を利用す。

武甲山の麓にも大宮郷と稱する地あり、紡績業盛んに行はる。

神奈川縣

神奈川縣

は相模全國及武藏の一市三郡を管轄す。縣廳は横濱市にあり。

横濱市(人口十八万八千) は東京の西南八里にありて、東京灣に臨み、本邦第一の開港場なり。本牧岬其東南を擁し、東北横濱灣を控へ、神奈川港に接し、背後圓むに丘陵を以てす。本港はサンフランシスコ及ヴァンクーヴァーより、上海若くは香港に航する要衝に當り、内外の船舶常に輻輳し、貿易

安政六年此地を以て互市場となす

神奈川縣

三五

最も盛なり(輸出物産は生絲、茶、絹布、銅等)として、總價額九千七十万圓、輸入品は綿絲、砂糖、石油、唐縮緬、毛布、機械、雜貨等にして、總價額八千六百八十三万圓とす。(明治三十一年末調査)正金銀行、税關及諸條約國の領事館あり。

横濱の西南に相模國大船あり、東海道鐵道はこゝより一支線を三浦半島に出し、鎌倉を経て横須賀に至る。鎌倉は昔源頼朝の幕府を開きし地にして、鶴岡八幡、建長寺、長谷觀音等の有名なる神社佛閣尚ほ存し、稻村崎、由井濱等の故蹟頗る多く、西には江島を控へ、遙に富士山を望み、風景絶佳なり。

横須賀の軍港は鎌倉の東南にあり、東洋第一の造船場にして、灣内水深く、自然の良港なり。浦賀は其南方數里の處にあり、米艦の初めて到りし地なるを以て名高し。

大船より西、馬入川を渡り大磯に至る、此地は海水浴場あるを以て有名なり。小田原は其昔後北條氏の據りし所にして、早雲寺今尚ほ存す。

箱根山は休火山にして、温泉に富み、箱根七湯を以て名高し。山上に湖水あり、蘆湖(周回三里)といふ、其水極めて清冽、近く富士の秀峯を望む。湖畔に離宮あり、其南岸に古の關所の趾あり。

鎌倉の近傍に金澤文庫と金澤八景とを以て、名を知らるゝ金澤あり。

浦賀の東端は即觀音崎にして、對岸の富津崎と東京灣の咽喉を扼する要害の地なるを以て、堅牢の砲臺あり、三

稻村ヶ崎は新田義貞の佩刀を海に投したるところ

小田原の附近に頼朝が旗揚げしたる石橋山あり

關東關西の稱は此の關より起る

崎は浦賀の西南に^{在り}て、東京帝國大學の臨海實驗所あり。小田原は漁業盛にして、鹽辛、梅干の名産あり、湯本には湯本細工稍名を知らる。

箱根山は所謂箱根八里と呼べる峻阪を有するを以て、東海道鐵道は國府津より酒匂川の岸に沿ひ、西北に向ひ、足柄山の麓を迂回し、數多の隧道を貫きて靜岡縣に入る。

千葉縣

は安房、上總の兩國及下總の内六郡を管轄す。縣廳は千葉町にあり。

千葉町（人口二万七千）は東京灣に臨み、房總鐵道の起點にして、第一高等學校の醫學部^{を設け}、これより鐵道により銚子に至る。此地は利根川の口にありて、此川によりて各地に通ずる便あるに由り、船舶輻輳す、銚子縮及び醬油は

足柄山は新羅三郎の笙を吹きしところ

千葉縣

房總鐵道上總一ノ宮に達す

誕生寺は僧日蓮の誕生せしところ

總武鐵道は東京より銚子に至る

此地の名産なり。其極端を大吠崎といふ、附近に暗礁多く舟行危険なり。

大吠崎の西南九十九里濱は、鱧獵を以て有名なり。小湊には誕生寺あり、清澄山には清澄寺あり、館山は小湊の西南に當る安房の名邑にして、漁獵最も多く、日々東京に輸送す。北條は其東北にあり、鋸山は安房上總二國の境にありて、鹿野山其北に峙つ。木更津は東京灣の一要津なり。

千葉より總武鐵道により佐倉に達す、第二旅團司令部の設あり、佐倉炭は此附近より出づ。成田は成田不動を以て名高く、近傍に印旛沼あり。佐原は酒を以て有名にして、利根川に臨む、本邦地學の泰斗伊能忠敬はこゝに出づ、近傍に香取神社あり。

市川には古の國府臺あり、今は陸軍教導團を置く、醬油の名産ある野田、味淋を以て名高き流山は皆下總武蔵の國境を流る、江戸川の沿岸にあり、其東方には小金原及習志野の原野あり。

鋸山は山頂鋸齒の如く、鹿野山は眺望に富めり。

房州砂は安房より出す白砂にして、山地よりは石材、木材を産す。

流山は流山

佐倉には木内宗吾を祀れる社あり、習志野は明治六年陸軍演習の際、御命名ありしところにして、國府臺は凡四百年前北條氏康の里見氏を敗れる古戰場なり。

茨城縣

茨城縣は常陸全國及下總三郡を管轄す、縣廳は水戸市にあり。

水戸家三十五万石

水戸市（人口三万二千）は徳川氏の親藩を置きし地にして、那珂川に臨み、徳川光圀、徳川齊昭、藤田東湖等こゝより出で、弘道館、偕樂園今尙ほ存し、木綿、烟草の産あり。土浦は水戸より東京に至る要路に當り、霞浦に瀕す。霞浦は本邦第二の大湖にして、舟楫灌漑共に便なり。筑波山は土浦の西北に聳け、此地方の高山なり。

水戸より鐵道に依れば結城紬を以て名ある結城に達す。水戸の北方、久慈川に至る間は地勢平坦なれども、これより以北は山岳起伏し、道路は海岸に沿ふて東北陸前に通ず、これを奥州濱街道といふ。其磐城の境には勿來關の舊跡あり。

霞浦の東に北浦あり、其水相集りて利根川に入る。北浦の

八幡太郎の咏歌を以て著はる

東方に鹿島神社あり、境内名勝多し。

栃木縣

栃木縣

は下野全國を管轄す。縣廳は宇都宮市にあり。

り。

宇都宮市（人口三万五千）は奥州街道の要路に當る繁

華の一都會にして、蒲生君平は此地に生れたり。これより鐵

道は分岐して二となる、其一支は西北に向ひ日光に至り、本

線は北方に進み鬼怒川、那珂川を越ゆ、那須野原を過ぐ、那須

岳は國の東北境に聳え、其西南高原山の麓に鹽原温泉あり、

稍名を知らる。

日光は徳川氏祖廟のある所にして、其東照宮は幕府の盛

時經營をなせしものなれば、結構の壯麗なるを本邦第一と

り、其北に男體山あり、日光山彙の冠にして、山下に中禪寺湖

あり、水深く且清し、其水溢れて華嚴瀑となり、流れて大谷川

となり、東に走りて鬼怒川に入る。有名なる足尾銅山は上野

の境にありて、年々探掘する、量本邦第一たり。

小山は宇都宮の南にあり、東北鐵道、兩毛鐵道及水戸鐵道

の會する所にして、市街年を逐ふて盛なり。西北に栃木あ

り、宇都宮に次げる繁華の地にして、麻絲の産あり、其西に木

綿織物及鑄物を以て名ある佐野あり、足利は又其西に

あり、足利學校こゝにあり、此近傍の都邑はすべて絹織物を

以て名あり。

足利の近傍なる太田の金山には、新田氏、栃木、佐野の間

なる唐澤には藤原秀郷の城趾あり。

中禪寺湖は古放魚を禁ぜしも近年其禁を解き、魚類大

此地方は新田
足利兩氏の起
りしところ
足利學校は小
野篁の創立に
係る

群馬縣

に繁殖す。日光山には杉、檜の良材多し。

群馬縣

は上野全國を管轄す。縣廳は前橋市にあり。

前橋市(人口三万一千)は生絲商業の中心にして、下野

國小山より高崎に至る兩毛鐵道は、此地を過ぎ、市況盛なり。

伊勢崎は其東南にあり、伊勢崎織を以て名高く、渡良瀨川

を渡れば、桐生ありて、機業頗る盛なり。赤城山は其西北に

聳ゆ。

高崎は前橋の西南、旅車程僅に二十分時にあり、第一師

團の分營を設く、製絲の業又盛なり。富岡は其西南に當り、

有名なる製絲場あり。妙義山は其西に峙つ、奇岩怪石を以て

知らる、越後の直江津に向ふ鐵道は其北麓を過ぎ、碓氷峠に

至る。淺間山は其西北に聳ゆる活火山なり。

碓氷峠は日本
武尊の故事を
以て著はる

上野の三山

高崎の西北に榛名山あり、東北の山腹に伊香保の温泉
場あり。草津は古より有名なる温泉場にして、四阿山の東
南にあり。

碓氷峠は上野、信濃兩國の境上にあり、箱根山と相應じ
て、關東の境をなす、上州横川と信州輕井澤とは、鐵道を以
て連絡す。

本縣の大部には足尾、三國の諸山脈に屬する峻嶺起伏
すれども、南東利根川の灌域は關東平野の一部分をなし、
土地肥沃、頗る農桑に適し、産物甚だ豊なり。

福島縣

は岩代全國及磐城七郡を管轄す。縣廳は岩

代國福島町にあり。

福島町(人口一万八千)は東北鐵道線に沿ひ、製絲業盛

福島縣

靈山神社には
北島顯家を祀
る

なり。東方磐城の國境に靈山嶽^{リヤンサン}とて、靈山神社あり。中村は其東海岸に臨み、相馬焼を以て名高く、これより以南の沿海は概ね平坦にして、魚鹽の利多し。平^{ヒラ}の附近は石炭に富み、鐵道の設ありて輸送に便なり。

福島^{フクシマ}の北に半田銀山あり、西に吾妻山あり、明治二十六年の破裂を以て有名なり。磐梯山は其西南に峙つ、若松市(人口二万八千)は會津平の都會にして、漆器、蠟燭を出す、此地は又戊辰の役を以て名あり、猪苗代湖は磐梯山の南麓にあり、湖上は汽船往復す、其水流れて日橋川となる。

二本松は細に名あり、郡山、須賀川を経て南行すれば磐城に入り、白河に至る。此地は戊辰の激戦地にして、東南古關村に白河の關趾あり。三春は郡山の東方にあり、其附

近は駿馬を産す、所謂三春駒と稱するものこれなり。

阿武隈川の灌域は奥州街道の通するところにして、東北鐵道はこれ貫けり。此灌域及會津平は共に地味肥沃、米穀の産出多く、蠶業盛なり。

棚倉は白河より久慈川に沿ふて、水戸に出づる街道にあり。

宮城縣

は磐城の三郡及陸前の十三郡を管轄す。縣廳は仙臺市にあり。

仙臺市(人口七万四千)は奥羽第一の大都會にして、第二師團司令部、控訴院及第二高等學校等あり。東京を距ること瀛車程十二時なり、伊達氏の舊城地にして、勤王家林子平は此地に生れたり、精好織(仙臺平)、羽二重、銅器、陶器、埋木細工

伊達氏六十二
万石

等を出す。

名取川は仙臺の南を流る、埋木は此川の産なり。

鹽竈は仙臺灣に臨み、鹽竈神社あり、製鹽に名ある所に
して、又松島を望むに宜し。松島は灣の西部にあり、無數の
小島碁布星列し、老松其上に生じ、風光明媚所謂日本三景の
一なり。多賀城の古趾は仙臺の近傍にあり。

石巻は北上川の河口にあり、縣下の良港にして、商業繁
盛なり。荻濱は石巻の東南にあり、横濱小樽間を航する汽船
の寄泊する所なり。金華山は牡鹿半島の東方にありて、本土
と海峽を隔つ、眺望甚だ佳なり。

鐵道は仙臺より北行し、鹽竈に一支を出し、鳴瀨川を渡り、
北上川の灌域を通じて、岩手縣に入る。駒岳は西北境に屹立

し、其形ち走駒に似たり。

古來有名なる宮城野は北上、阿武隈兩河の灌域に屬し、
米穀能く登り、仙臺米の名高し、北上川は汽船上下して、物
貨の運送頗る便なり。國の西北に當り、鍛冶屋澤に軍馬育
成所あり。

岩手縣は陸前の一郡、陸中の十七郡及陸奥一郡を

管轄す。縣廳は盛岡市にあり。

盛岡市(人口三万一千)は北上川の上流に位せる南部
氏の舊城地にして、青森に通ずる要路に當り、生絲及鑄物を
産す。有名なる厨川の柵趾は其近傍に在り。水澤は國の南
部にありて、鎮守府の舊趾は此地に近し、衣川は北上川の一
支流にして、附近に古跡多く、衣川の柵趾、中尊寺、高館、平泉の

岩手縣

南部氏二十万石

安部貞任の討死せしところ

衣川は辨慶の故事あり

中尊寺は藤原
秀衡の建立
高館は源義
平泉は秀衡
居館は秀衡の

館趾等あり。又水澤より西北に當りて有名なる仙人鐵山あり。

一、關は南方國境に近く、蠶業盛なり。釜石は北上山脈の東部海岸にあり、海水深く碇泊に便なり。海岸を北進すれば宮古に出づ、これ亦良港なり。

北上川の灌域は米穀の産額多く、分水山脈及北上山脈は鑛物に富み、沿海には魚類多し、然れども南部の海岸一帯は、近年大海嘯の爲め頗る衰微せり。

青森縣

は陸奥八郡を管轄す。縣廳は青森市にあり。

青森市(人口二万六千)は青森灣に臨み、箱館及東京に漁船の便あり、近傍は米穀並に檜、松、杉、羅漢柏等の良材を産す。灣の東に夏泊崎ありて、野邊地灣を擁す、野邊地は其灣

頭にあり。斗南半島は東北に突出して、陸奥灣を抱き、分水山脈の起端、恐山、燒山はこゝに聳れ、多量の硫黃を産す。

大湊は斗南半島の南岸にありて、野邊地と相對す。恐山の山脈は延びて、國の中央に至り、八甲田山となり、南麓に十和田湖を湛ふ、其水溢れて相坂川となり、東流して海に注ぐ。鐵道は此川及馬淵川を渡りて八戸に至る、馬淵河口なる鮫港へは、此地より分る、支線あり、八戸より馬淵川の灌域を溯れば、岩手縣の管内に入る、八戸より西北に當り、三本木に軍馬育成所あり。

青森の西南に弘前市(人口三万一千)あり、國中第一の都會にして、岩木川に臨み、第八師團の司令部あり、商業繁盛、漆器を産す。岩木川は又弘前川といひ、國の南部に發し、岩木山

の東を流れ、十三瀉に注ぐ、其灌域は米産を以て名高し。岩木山は津輕富士と稱し、西部沿岸火山脈の起點なり。碓ヶ關は弘前の東南にあり、奥羽鐵道は此地まで延長せり。

八甲田山の山脈は西北に延きて、津輕半島となり、龍飛崎に至りて盡く。此半島と斗南半島との間は、即平館海峽にして陸奥灣の口なり。

秋田縣

秋田縣 是羽後の八郡及陸中の一郡を管轄す。縣廳は秋田市にあり。

佐竹氏二十万石

秋田市（人口二万六千）は御物川の河口にありて、後に太平山を負ふ、佐竹氏の舊城地にして、秋田織、秋田露を以て名あり。これより海岸に至る二里弱にして、土崎港あり、船舶の碇泊に便なり、更に北に向ひ八郎瀉の近傍を過ぐ、男鹿

半島は其西に突出し、寒風山中央は峙ち、船川港 其南麓にありて、冬期の碇泊に便なり。

能代 は能代川の口にあり、能代塗の名産地なり。能代川は陸中北部の尾去澤銅山に近く發源し、西流して阿仁鑛山より來る阿仁川を合せ、能代に至り海に入る。此兩河の會する地方は灌域大にして、米を産すること夥し。大館は矢立峠の南にありて、陸奥に通ずるの要地なり。

秋田より御物川の灌域を東南に進めば、横手に至る。此地は木綿の製出盛なり、附近に金澤の柵趾あり。御物川は國境の駒岳に發し、流域は多く米穀を産す。横手は又陸中黒澤尻に通ずる要路に當る。これより湯澤を經、院內鑛山に近き院內峠を越ゆれば、山形縣に入る。出羽富士の稱ある鳥海山

源義家の攻めしどころ

(七千尺)は海岸に近く峙立して、地勢を南北に分つ。

本縣の東部には中央分水山脈連亘し、鑛山に富む。即北部陸中には小坂銀山、尾去澤銅山あり。中部には森吉山の麓なる阿仁の銀山及荒川銅山あり。南部には院内銀山あり。

山形縣

山形縣

は羽前全國及羽後の一郡を管轄す。縣廳は山形市にあり。

山形市(人口三万一千)は藏王山の西北にあり、商業頗盛なり。新庄は北方にありて、秋田に通ずる要路に當り、綾織を産するを以て名あり。酒田は最上川の口にありて、船舶の出入多し。鶴岡(一名庄内)は其南方にあり、最上川の一支流に臨み、又繁盛の都會なり。湯殿、羽黒、月山は其東南にあり

上杉氏十八万石

最上川は日本三急流の一

新潟縣

て、三山鼎立す、これを總稱して羽前の三山といふ。此山彙を横ぎりて、最上川の支流に出て、更に本流を溯れば、米澤市(人口二万九千)に達す。此市は上杉氏の舊城地にして、精巧織其他絹布の産出を以て有名なり。これより國道は東南に進み福島縣に入る。

最上川は國の南境吾妻山に發し、米澤を通過し、山形に接近し、羽黒山の麓を繞りて、日本海に入る。此灌域は一帯の沃地にして、産業盛んなり。

新潟縣

は越後及佐渡を管轄す。縣廳は新潟市にあり。

新潟市(人口五万)は信濃川の口にありて、五港の一なり。然れども泥砂年々河口を埋め、船舶の碇泊不便にして、貿

易甚た振はず。新發田は其東方にありて、第二師團の分營あり、多く石油を産す。村上は其北に當れる名邑なり、これより羽前の鶴岡に達すべし。

新潟より信濃川沿岸を溯れば、綿布を以て有名なる三條に至る。五泉は其東北にあり、五泉平及絲織の産地なり。長岡は三條の南にありて、新潟を距ること十七里、日々汽船の往復あり、絹織物及鑄物の製造盛んなり。東方に越後二大石油産地の一と稱せらる、浦瀬あり、枋尾は其東にあり、枋尾紬を以て知られ、小千谷十日市は其南にあり、透綾越後縮を以て著はる。これより以西は信濃、阿賀兩川の灌域と區域を異にし、地勢平夷ならず。

春日山は上杉謙信の城趾

名高き高田(人口二万)は其南にあり、西に春日山あり、西南に妙高山、焼山ありて、其山脈海岸に迫り、越中との國境にては有名なる親不知の險道となる、然れども今は平坦なる新道を開通せり。

直江津より東方の海岸には柏崎、出雲崎、寺泊の諸港あり。出雲崎の近傍に尼瀬あり、越後二大石油産地の一たり。出雲崎、寺泊は佐渡に航する要津なり。出雲崎より北方の海上十一里餘にして、佐渡の小木に至る。

小木の北に新町ありて、眞野灣に臨む。其東方眞野村の山中に順徳天皇の陵あり。相川(人口一万四千)は島中第一の都會にして、無名異焼を出す。東北金北山は金銀の産出夥しく、東に夷町あり、灣に臨み、對岸の湊町と相對し船を泊

するに便なり。

本縣の東南は山岳重疊し、地勢高峻なれども信濃、阿賀兩川の灌域は所謂越後の平野をなし、米穀の産額多きのみならず、これ等の河流には多くの鮭を産し、國産の一に數へらる。

長野縣

は信濃全國を管轄す。縣廳は長野市にあり。

長野市（人口二万九千）は有名なる善光寺あるを以て名高く、千曲川、犀川はこゝに相會して、一川となり、北に流れて越後に入る、信濃川即これなり。此近傍は土地平坦にして善光寺平の名あり、寒暑の差甚しといふ。鐵道は北に進み、飯綱山の麓を過ぎて、越後に入る。

長野の近傍千曲川、犀川の相會するところは、即川中嶋

にして、武田、上杉兩氏の古戰場なり。犀川は源を國の西部、飛驒山脈に發し、松本平を貫通して、千曲川に合す。

松本は松本平にあり、縣下第二の都會にして、市况盛んなり、其南部に木曾山脈あり、鹽尻峠は其起端にして、脈を西南に引き、木曾河谷と天龍河谷とを分つ、惠那山は此山脈中の高峰なり。

木曾川は源を小木曾の山中に發し、木曾山脈の西北を經過し、美濃に入る。此河谷には大森林ありて、良材を産す、木曾街道はこれに沿ふて通ず、谿谷急峻、所謂木曾の棧道とはこれなり。飛驒山脈は此河谷を隔て、西方飛驒の國境あり、一万尺内外の高峯連亘す。

飯田は天龍河谷の中央にあり、南方參遠、諸國に達する

木曾義仲の起りし所

要衝に當り、人馬の往來頻繁にして、傘、紙、漆器及元結を産すること夥し。此河谷は木曾河谷より廣濶にして、西及北方は木曾山脈、東は高峻なる赤石山脈によりて限らる。

天龍川は諏訪湖に發源し、南流して遠江に入る。諏訪湖は和田峠の西麓にあり、冬季には湖面堅く氷結して、人馬往復すべし。下流は伊那谷と稱し、國中の氣候最も温暖なる部分にして、果實に適し、養蠶甚だ盛なり。上諏訪は湖の東南にあり、温泉を以て有名なり。これより和田峠を越へ、國の東部に達す。東方上野の國境に碓氷峠あり。輕井澤は此峠にありて、上田を距る瀛車程一時半なり。

千曲川は國の東南隅に發し、西北に流れ、佐久平を通じ、上

姨捨山は觀月の名所、松代は佐久間象山の生地

田を過ぎ、長野の近傍にて犀川に合す。上田は養蠶、紡績の業盛んにして、上田縞、上田紬の名夙に著はる。これより姨捨山の近傍を過ぎ、松代の西を経て、長野に入る。

本縣は境域甚だ廣く、十箇國に接し、山脈四周を圍み、西部殊に高峻なり、然れども千曲、犀、天龍諸川の灌域には平地ありて、蠶業甚だ盛んなり。

碓氷峠は關東の境にして、地勢頗る高く、上野の横川より輕井澤に通ずる鐵道線路は、急斜にして「アプト」式を用ひ、二十六箇の隧道あり。

山梨縣

は甲斐全國を管轄す。縣廳は甲府市にあり。

甲府市(人口三万五千)は國の中央に位す。笛吹川及び

富士川は日本
三急流の一

釜梨川は國中の水を入れ相合して、富士川となり、駿河に入る。鮎澤は富士川の沿岸にあり、これより駿河に下れば、水勢急にして、舟行矢の如く、河口迄凡十八里、僅に半日にして達すべし。

身延山は鮎澤の西南にあり、日蓮宗の本山あるを以て聞ゆ。これより北方は峻嶺連続し、白峰山、駒岳、其中にあり、八岳は西北隅に峙つ。金峯山は其東にあり、多く水晶を出す、南方に韭崎あり。

甲府より東に向ひ、葡萄を以て名ある勝沼を過ぎ、笹子峠に達す。武田勝頼の滅亡せし天目山は、其北方にあり。此附近都留郡一圓を郡内と稱し、盛んに甲斐絹を製出す。これより猿橋を渡り相模に入る。

猿橋は日本三
奇橋の一なり

本縣は四面に高山峻岳連り、中央に平原あり、形恰も挿鉢の如し、本縣も蠶業盛んにして、大に絹布を出す。

産業

産業

五四

(産業)

關東地方は平野多く、米は武蔵、常陸、上總、下總等より産出し、麥は武蔵最も多く、房總地方も亦尠からず。煙草は常陸を最とし、相模これに次ぎ、麻は下野に多く、藍は利根川、荒川の灌域に産し、下野の日光は杉、檜等の良材を出す。養蠶の盛んに行はるゝは上野にして、武蔵、相模、下野等これに次ぎ、上野の桐生、伊勢崎、下野の足利、武蔵の八王子、秩父等の絹織物は産額多く、需用廣し。

漁業は房總半島の沿海、最も盛んにして、乾鰹、鱈節等の價額は頗る大なり。鑛産は下野に最も多くして、足尾は銅の採掘高、全國に比類なく、伊豆、相模、安房の石材は需用尠からず。其他常陸及房總地方の綿井に牛馬、下總の銚子縮、下野の眞岡木綿、東京の摺附木、蒔繪細工、錦繪、淺草海苔、箱根の湯本

細工、下總流山の味淋、野田、銚子の醤油等著名なり。

奥羽地方は米の産出多く、仙臺の平野其最たり。牧畜は各國共に盛んにして、良馬は其東半部の名産なり。養蠶は岩代を最とし、陸前、羽前等これに次ぎ、隨て蠶絲の産出多く、絹布の製造盛んに行はる。陸前の仙臺平、米澤の絲織、秋田の畝織等最も名あり。

鑛山は最も多くして、種々の鑛物を出す。岩代、半田の銀、陸中、釜石の鐵、尾去澤の銅、小坂の銀、羽後、阿仁の銀、院内の金、銀等最も著はる。其他岩代、會津の漆器、蠟燭、磐城の相馬燒、陸前の埋木細工、陸中、羽前、羽後の鮭、陸奥の木材及津輕塗、羽後の能代塗等なり。

越後は米の産出最も多く、本邦第一に位す。織物の製造又

盛んにして、越後縮、越後上布、五泉平等最も名高く、石油の産出は全國に冠たり。佐渡は有名の産金地にして、産額全國に比類なし。其他多量の銀を出し、沿海には鱈、鮑多し。

甲信地方は養蠶最も盛にして、就中信濃は全國第一と稱せらる。上田、瀧内織は此兩國より出す。木曾は良材多く、木曾五木の名高し。甲斐には水晶の産出尠からず、其他信濃の更科蕎麥、甲斐の葡萄等有名なり。

第二章

中區の西部

區域

(區域)

静岡縣、愛知縣、岐阜縣、三重縣、和歌山縣、徳島縣、高知縣、宮崎縣、鹿児島縣、熊本縣、長崎縣、佐賀縣、福岡縣、島根縣、鳥取縣、福井縣、石川縣、富山縣、滋賀縣、京都府、奈良縣、大阪府、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、大分縣、愛媛縣、香川縣

山系

(山系)

本部の山脈は所謂崑崙山系に屬し、大別して二大派をなし得べし。其一派は南日本外帶山脈と稱するものにして、九州南部山脈を起點とし、豊後の佐賀關に至りて海に没す、四國にては伊豫に現はれ、其脊梁を成すところの四

南日本外帶山脈

國山脈となり、紀伊海峽に至りて、再び海に入る。

紀伊半島にては紀伊山脈となり、東方に突出する志摩に至り、三たび海中に没す、其對岸に渡り、參遠の境を過ぐるや、急に高峻となり、更に駿遠の境に至り、赤石山脈となり、富士帯に達す。

九州南部山脈は薩摩の西北部を起點とし、肥後、日向の境を過ぎ、豊後、日向の境にては、九州の高峯、祖母岳(六千五百尺)を起す。

四國山脈は伊豫の西南部を起點とし、土佐、伊豫の境を過ぎて、四國の高峯、劍山(七千四百尺)を起し、阿波の中央を貫きて、海に入る。

紀伊山脈は紀伊半島を横走して、其主軸を成す、有名な

る高野山は此中にあり、大和にては幽峻なる吉野山彙となり、山上、岳、大臺原山等の諸山を起す。

紀伊山脈の伊勢内海に没し、渥美半島に出づるや、參遠の境に走せて、秋葉山に連り、駿遠の境に至りて、赤石山(一万二百尺)となり、甲信の境にては駒岳(九千九百尺)となる、赤石山脈これなり。

他の一脈は九州の西北部に起り、馬關海峽に至りて海に没し、本州に入りて外帶山脈と並行し、中國の分水界を成し、琵琶湖の北を過ぎて東北に進み、飛驒山脈、木曾山脈となる。南日本内帶山脈と稱せらるゝものこれなり。

内帶山脈の九州に屬する部分は、山勢高峻ならず、中國山脈は長門より石見の境に至り、徳佐峰となり、進

南日本内帶山脈

みて、東方に走り、山城の北境にて、愛宕山となり、近江の境にて比叡山を起し、琵琶湖の北を過ぎて、濃飛高原に連る。飛驒山脈は南北兩大山系の相會する地に接し、山脈重疊、地勢頗る高峻なり、御岳(一万三百尺)乗鞍岳(一万四百尺)等の高峰あり。

木曾山脈は飛驒山脈の南にあり、外帶山脈の赤石山脈と並走す、駒岳、惠那山等此中にあり。

其他琵琶湖の南に鈴鹿、笠置、及葛城の三山脈あり、又内帶山脈に屬す。

霧島帶の火山脈は琉球諸島に起りて、九州に入り、開聞岳、櫻島岳を起し、霧島山となり、稍西北に折れ、温泉岳、多良岳に終る、霧島山の高千穂峰(五千百尺)最も名あり。

霧島帶

阿蘇火山脈

日本海沿岸火山脈

阿蘇火山脈は九州の中央部にある一帯の火山脈にして、其脈延きて四國石鎚山に連るものなり。阿蘇山は此脈中の大火山なり。

日本海沿岸には海岸に沿うて、東北に連る火山脈あり、三瓶山及中國の最高峰大山(六千二百尺)北陸の高峰立山(九千七百尺)等所々に噴起す。

以上外帶内帶の二大山脈及霧島帶、阿蘇火山脈、日本海沿岸の火山脈は、實に本部を構造する主要の山脈なり。

(水系)

本部の水系は本州の西部、四國及九州に亘り、太平洋斜面區域、支那東海斜面區域、日本海斜面區域、及瀬戸内海斜面區域に屬し、稍複雑に渉るを以て、先づ本州の太平洋斜面區域より記載し、漸次他に及ぼさんとす。

水系

本州の太平洋斜面區域は、富士帶を以て、東方の境界線とし、濃飛高原にて北方を限り、飛驒、木曾、赤石、鈴鹿、葛城、笠置の諸山脈、皆富士帶に向ひ、東北に連亘するに依り、これより以南の河流は、概ね諸山脈の溪間を南方に流れ、太平洋に注ぐ。木曾川は中央にあり、木曾、飛驒兩山脈の間を西南流して、飛驒川と會し、濃尾の平原に出て、長良、揖斐二川を合せ、伊勢内海に入る。長さ四十六里あり、其東に矢作川、豊川、天龍川、大井川、安倍川、富士川ありて南流し、其西には東流する櫛田川、宮川、南流する熊野川、西流する紀伊川等あり。

濃尾の平原は木曾川及其支流の灌域にして、廣さ十數里、地味最も肥沃にして、名古屋の大市あり。大垣、岐阜、桑名等皆此灌域にあり。

豊川の下流に豊橋あり、矢作川の灌域に岡崎あり、宮川の下流に山田あり、熊野川口に新宮あり、紀伊川の下流に和歌山あり。

四國及九州の太平洋斜面區域は四國山脈、九州南部山脈及霧島帶によりて限られ、河流は多けれども長大なるもの稀なり。四國にては吉野川最大にして東流し、仁淀川、渡川は南流し、九州の五箇瀬川、美々津川、大淀川等は皆東流して海に入る。

吉野川は四國三郎と稱し、源を四國山脈の南麓に發し、北に向ひて、山脈を横斷し、東流して海に入る。下流の灌域は南北三里、東西二十四里に互れる平野にして、地味肥沃、最も有名なる藍の産地なり。河口に徳島あり。

仁淀川の下流に近く高知あり。其四近の地、稍平夷なり。五箇瀬川は阿蘇山より發し、東流して海に入る。長さ三十三里、下流の灌域に延岡あり。美々津、高鍋兩川の下流には、同名の都邑あり。一瀬川の下流には佐土原、大淀川の灌域には宮崎あり。

支那東海斜面區域

支那東海斜面區域は霧島帶、九州南部山脈及九州北部山脈によりて限られ、地勢稍開豁なるを以て、九州の大河は皆此一區に集る。川内川、球摩川、菊池川、筑後川の如きこれなり。筑後川は筑紫二郡と稱し、二源あり。相合して大河となり、西流して筑紫洋に注ぐ。長さ三十五里、灌域は地味豊饒にして、農産物に富み、久留米、柳川、佐賀此灌域にあり。川内川は薩摩の北部にあり、西流して海に入る。長さ四

十六里、九州第一の長流なれども、水流頗る急激にして、沿岸すべて低平ならず。

日本海斜面區域

日本海斜面區域は九州にては松浦半島以東にして、九州北部山脈によりて限られ、中國にては中國山脈南境をなし、以東の北陸は濃飛高原及飛驒山脈に依りて、太平洋斜面區域と境を分つ。九州に遠賀川あり。中國に江川、日野川あり、皆北流す。北陸にては西部の日野川は西北に流れ、東部の射水川、神通川等は正北に流る。

江川は中國第一の大河にして、中國山脈の南に發し、山脈を横斷して、日本海に注ぐ。釜川下流の灌域は、地勢稍低平にして、米穀の産に富む。其東方に矢道湖(周回十三里)あり、山陰第一の都會、松江は其東岸に立てり。更に其東に中

海(周回十六里)あり、湖脚に境あり。

神通川は飛驒山脈の水を集めて、北流し海に入る。長さ五十餘里、其上流には高山あり、下流には富山あり。神通川の西に射水川あり、其河口の附近に高岡及伏木あり。此二川を通じたる平野は、地味肥沃にして、所謂越中米の産地なり。

瀬戸内海斜面區域は琵琶湖及笠置、葛城諸山脈以西、中國山脈以南、九州北部山脈、阿蘇火山脈及九州南部山脈一部の以東、四國山脈以北にして、瀬戸内海に向ひ、傾斜する區域なり。

本州には琵琶湖より出で、大阪灣に入る淀川、中國山脈より出で、南流する加古川、揖保川、千種川、東大川(吉井川)、西大川(旭川)、大川(川邊川)、太田川等あれども、九州及四國には、僅に大野川、肱川あるのみ。

琵琶湖は周回六十里、南北の長さ十六里、東西の幅一里乃至五里あり。湖中に竹生島、沖島、奥島等あり。沿岸の地は平坦にして、田野遠く開け、長濱、彦根、草津、大津あり。湖水は大津に至り、勢多川となり、西流して宇治川、淀川の稱を得て、大阪灣に入る。淀川の灌域は、大阪灣より東北に連る平地にして、京都、大阪の三大都會あり。

東大川の上流に津山あり、西大川の下流に岡山あり。大川の灌域には高梁あり。これ等下流の灌域は地勢平坦にして、耕耘に適し、最も米穀の産あり。太田川の下流に廣島あり。

瀬戸内海
斜面區域

四國の瀬戸内海沿岸は平坦なる處多く、高松、丸龜、松山等の都邑あり。

沿岸

伊豆半島より大阪灣に至る沿岸

(沿岸)

伊豆半島は富士帶の貫通する處にして、斷岸多く、東南端に下田港あり、南端を石廊崎と稱す。遙に御前崎と相對し、駿河灣を擁し、灣内に清水港あり。下田以西、志摩の鳥羽に至る間は、所謂遠州洋にして、海上七十五里、一も良港なく、波濤頗る荒し。

伊勢内海は、渥美、志摩兩半島の扼するところにして、北に向ひて、内地に入ること凡十七里、灣内に桑名、四日市、熱田等の港あり。三河灣は知多半島と、渥美半島との擁するところにして、渥美、知多の二灣に分ち、知多灣内には半田港あり。

志摩半島より紀伊半島の潮岬に至る間は、絶壁處々に峙ち、其沖を熊野沖と稱す。熊野川口には新宮あり。以西の海岸にては、獨り田邊灣著名なるのみ。これより北方は紀伊海峽の東岸にして、由良海峽を経て、大阪灣に入る。

大阪灣は一に茅渚の海と稱す。畿内の門戸にして、東北には關西商業の中心なる大阪あり。其南に堺港、西に神戸港あり。灣内水深く、廣袤凡十里あり。紀伊海峽の北部には、和歌山、徳島の兩港相對す。

瀬戸内海沿岸は、犬牙錯雜し、海上には、無數の島嶼羅列し、風浪の危難、極めて稀なるが故に、全國の沿海中、交通の最も頻繁なる所とす。東西凡百里、南北最も廣き處、凡廿里あり。

大阪灣より明石海峽を過ぐれば、播磨洋にして、北岸に

瀬戸内海沿岸

室津港あり。小豆島を過ぐれば、北方に兒島半島突出して、兒島灣を抱き、以西に水島洋、備後洋、廣島灣等ありて、鞆尾道、吳の諸港あり。大島を過ぐれば、周防洋にして、柳井津半島あり。

南方には高松、多度津等ありて、濠洲灣入し、伊豫の西北に硫黄洋あり、其東北岸に三津濱あり。硫黄洋は豊後海峽を以て外洋と通じ、周防洋は馬關海峽に依りて日本海に通ず、赤間關は其海峽に臨める良港なり。

四國の東北角と淡路嶋との間は、鳴門海峽にして、舟行危険なり。東南角蒲生田岬より室戸岬に至る沿岸は、岩礁多く、良港なし。室戸岬より蹉跎岬に至る大灣は、土佐灣にして、其沖を土佐沖と稱す。蹉跎岬より西北、佐田岬に至る間は、海岸

四國の南岸

の出入甚しく、嶋嶼多し。速吸海峽は佐田岬と九州の地藏岬の成すところなり。

土佐灣は半圓形の大灣にして、其一部は往古地震の爲に陥没して成りしなり。須崎、浦戸の諸港、其内に在り。

九州沿岸は全國中、最も岬角港灣に富み、西海岸を殊に甚しとす。東海岸には東北に國東半島あり、南に大分灣あり、佐賀、關半島東に突出して、伊豫の佐田岬と對す。これより以南、日向の境に至る間は、出入稍多く、日向の海岸は概するに直線をなし、港灣に乏し。都井岬の西に志布志灣あり、大隅半島其西に突出し、薩摩半島と共に鹿兒島灣を擁す。灣内に櫻島の活火山あり、西岸に鹿兒島あり。

薩摩半島の野間岬以北は、海岸大に錯雜し、西に飯島あり。

九州の沿岸

北に天草島ありて、其下島の沖は有名なる天草洋なり。肥前半島は其北にあり、縦横に蟠屈して、最も港灣に富む。東方は所謂有明洋にして、三角港は其南部にあり、西方には大村灣ありて、灣口に佐世保軍港あり、五島は其西方に列る。

北松浦半島より東方、馬關海峽に至る間に、伊万里、唐津、博多の三灣あり。其沖を玄界洋といひ、東に響洋あり、共に風波の難あるところなり。玄界洋の西方には、急峻にして、岬灣に富める壹岐島あり。其西北には沿岸の險阻なる對馬島横はる。兩島の間は即對馬海峽なり。

日本海沿岸は屈折少きを以て有名なり。中國の西端より若狹灣に至る間には、唯出雲の東北に斗出して、此處に海岸の屈折を有する外、一も著名のものなし。出雲の北方なる隱

日本海沿岸

岐には、西郷港あり。

若狹灣以北にては能登半島突出し、七尾及富山の兩灣は其東にあり。能登の尖端、珠洲岬近傍は岩礁多く、航行危険なり。

島根半島の内側には、夜見濱突出して、海峽を狭む。中海は其内にあり。境港は夜見濱の盡頭に位し、海峽に臨む。

若狹灣は海岸の屈折著しく、舞鶴、宮津の二港あり、共に良灣とす。特に舞鶴は軍港にして、第四鎮守府の所在地なり。灣の西端に經岬斗出して、これを擁す。東西凡二十里あり。此灣と伊勢内海との間は、本州の地頸にして、其幅僅に二十六里に過ぎず。

交通
陸路

(交通)

東海道鐵道は、東京より東海道に沿ひ、名古屋に來り、關西鐵道を分ち、美濃を経て近江に入り、北陸線を分岐し、進みて京都に至り、奈良鐵道を分ち、更に西南に向ひて大阪に達し、阪堺鐵道、大阪鐵道等の支線を發し、それより神戸に延びて山陽鐵道に聯絡し、山陽道の沿岸を走りて赤間關に達す。

山陽道には、京都より山口に通ずる國道あり、外に陰陽兩道を聯結するには二三の道路あれども、鐵道は未だ開けず、只播但鐵道の姫路より、生野に通ずる一線あるのみ。

四國にては徳島より吉野川に沿ひ、西に進むものゝ多度津より高知を経て、松山に達するものゝあり。鐵道は僅に讚岐鐵道と、南豫鐵道との外、徳島の近傍に短距離のものあり。

九州にては東北端より起り、久留米を経て、熊本に入り、鹿兒島に至るものゝ。東部沿岸を南行して、大分、宮崎を過ぎ、鹿兒島に達するものゝあり。鐵道は門司を起點とし、東部にては行橋を過ぎ、長洲に至る。幹線は福岡を過ぎ、鳥栖を経て、八代に達し、其支線は鳥栖より、佐賀を過ぎて、佐世保に及ぶ。別に早岐より分れて、長崎に至る、一線あり。東北部には數多の支線を有す。

航路は神戸を中心とし、東海道に沿ひ、横濱に向ふあり。四國南岸の高知に至るあり。瀬戸内海を過ぎ、赤間關を経、日本海を廻りて敦賀に至り、小樽に向ふあり。等しく瀬戸内海を過ぎ、九州の東海岸に沿ひ、鹿兒島を経て、長崎に至るものゝ。北岸を通じて、長崎に達するものゝあり。

航路

長崎より北は、ウラジオストク及釜山に向ひ、西は上海に至るべし。就中瀬戸内海は、商船會社の汽船航行し、沿岸各地に寄港するを以て、運輸交通の便なること、全國に冠たり。

静岡縣

静岡縣 伊豆七島を除く駿河、遠江を管轄す。縣廳は静岡市にあり。

製茶の季節には商業頗る活潑なり

寶永山は寶永年間を生じたるもの

静岡縣

静岡市(人口三万九千) はもと駿府又は府中と稱せり、往時徳川家康退隱の地にして、山田長政は此地の人なり。漆器、竹細工を産し、製茶、製絲盛なり。東方に清水港あり。清水港は港内水深く、田子浦、三保松原一眸の中にあり。近傍の久能山には、徳川家康を祀る。これより興津鯛を以て名高き、興津を過ぎ、富士川を渡り、左に富士山を望みて、沼津に達す。

富士山は本邦内地第一の高山にして、直立一万二千四百六十七尺、遠く望めば、恰も白扇を倒まに懸けたるが如し。頂上に噴火口あり、周圍半里許、東方の山腹に一峯あり、寶永山

富士川は日本
三急流の一

修善寺(地名)に
源頼家の幽せ
られし修善寺
寺あり

焼津は日本武
尊の東夷征伐
の時危難に遭
ひ給ひしとこ
ろ

大井川の渡は
往時の奇観

徳川家康の居
城ありしとこ
ろ

三方ヶ原は徳
川家康と武田
信玄と戦ひし
ところ

といふ。南麓は即富士の裾野なり。富士川は水勢頗る迅く、昔平氏の軍、夜半水禽の音を聞きて、潰走せしところなり。

沼津は三島を経て、箱根に通ずる東海道と、御殿場を過ぎて、相模に入る東海道鐵道との分るゝところにして、海岸は風景に富む。其南東に**韭山**及北條氏の起りし北條あり。源頼朝の流謫せられたる**蛭小島**は其近傍にあり。修善寺は其南にあり。

天城山は半島第一の高山にして、有名なる官林あり、良材薪炭を出す。下田は良港にして、其南方に當り、維新史上に名あり。此地より東海岸に沿ひ、北に進めば**熱海**に達す。此地間歇温泉を以て名高く、氣候溫和、風光秀絶なるにより、都人士多く來遊す。

静岡の南に史上に名高き**焼津**あり。これより西南に進み、大井川を渡る。大井川は駿遠の境を限る大河にして、平時は徒歩にて涉り得べきも、一朝降雨あれば、水量俄に増加し、其水勢驚くべしといふ。

鐵道はこれより西方に進み、天龍川を渡る。天龍川は信州諏訪湖に發して、南流し、遠江の中央を貫流す、灌漑の利大なり。

濱松(人口一万九千)は遠州第一の都會にして、静岡、名古屋の中央に位し、市街繁盛なり。加茂眞淵は此地に生る。北に**三方ヶ原**あり、西に**濱名湖**あり。濱名は四百餘年前、海嘯の爲に湖口切れて、海に通ぜり。其口を**今切**と稱す。

本縣は東に富士帶貫通し、北に赤石山脈蟠屈するを以

て、河流皆急峻なれども、氣候頗る温和にして、諸大河の灌
域は、最も農業に適し、殊に駿河の西部は茶の栽培盛んに
行はれ、安倍茶の名世に高し。

愛知縣

は尾張及三河を管轄す。縣廳は名古屋市に
あり。

徳川氏六十二
万石
名古屋城は日
本三名城の一

正殿は日本武
尊外四神を祭
り大用殿に草
薙劔を祭る

名古屋市(人口二十四万六千)は徳川氏の親藩を置き
し、こころにして、名古屋城は北方に聳々、金鯱を以て名高く、
第三師團司令部及控訴院あり。七寶燒、織物、名古屋扇、生絲等
此地の名産なり。

名古屋の南に熱田あり。伊勢に渡航する要津なるを以
て、帆檣林立す。東部に熱田神宮あるに由り、通稱を宮といふ。
これより南は知多半島にして、東岸に半田、武豊あり。西岸

桶狭間は織田
信長の今川義
元を破りしと
ころ

長篠は織田信
長の武田勝頼
と戦ひしとこ
ろ

長湫は徳川家
康の豊臣秀吉
の軍を破りし
ところ

に常滑あり、半田は知多灣に臨み、水深くして船舶の出入
多く、常滑は常滑燒を以て名高し、此地方は醤油及清酒を産す。
熱田の東方數里に、絞を以て、有名なる鳴海及有松あり。
有松の南に史上に名高き桶狭間あり。これより三河に入
り、矢作川を渡りて、岡崎に至る。此地は徳川氏創業の地に
して、漆器を産し、商業盛んなり。豊橋は三州第二の都會に
して、豊川の下流に臨み、第三師團の分營あり。

豊川の上流に砥石を産する名倉あり。鳳來寺山高く
聳々、三河第一の靈場と稱せらる。鳳來寺、此山中にあり。長
篠の古戰場は此近傍にあり。國內の地味、棉の栽培に適し、三
河木綿夙に名あり。雲母、花崗石も亦名産なり。

名古屋の東北に、瀬戸燒の産地なる瀬戸あり。長湫の

古戰場は其近傍にあり。北に小牧山ありて、天正の役に名あり。清洲は織田信長の居城ありしころにして、名古屋の北方一里半許にあり。東海道鐵道は、名古屋より此地を経て、一宮を過ぎ、木曾川を渡り、岐阜縣に入る。名古屋以西、木曾川の灌域は、地味極めて膏腴にして、人烟最も稠密なり。

矢作川は北境美濃より來りて、三河灣に入る。豊川は東部にあり。太平川は矢作川の支流なり。以上三川あるを以て、參河の國名起る。

岐阜縣

岐阜縣

は美濃及飛驒を管轄す。縣廳は岐阜市にあり。

稻葉山は齋藤秀龍織田信長等の城趾

岐阜市（人口三万）は稻葉山を負ひ、長良川に臨み、商業活潑なり。岐阜提燈は此地の名産なり。又長良川は鮎を産し、

鵜飼を以て有名なり、これより中仙道街道に沿うて、東に向ひ、各務野を過ぎ、木曾河谷に沿ひ、長野縣に入る。

飛驒川の灌域を上り、宮川の沿岸に移れば、飛驒の中央なる高山に至る。昔は徳川氏の直轄地にして、紡績に従事するもの多し。此地は海岸を距ること遠く、土地高きか故に、寒暑の差甚し。其南には一位細工を以て名を得たる位山あり。其西部は陶器及紙の製造盛んにして、東部は茶を産するものと夥し。

岐阜より長良、揖斐二川を渡りて、西行すれば大垣に至る。其西北、赤坂は有名なる大理石産地なり。關原は又其西にあり、著名の古戰場にして、且往古不破の關ありし所なり。養老の瀧は、平野の南なる多度山中にあり。鐵道は尙西

大垣は關ヶ原の役西軍の根拠とせしとて

に向ひ、膽吹山の南麓を過ぎて、滋賀縣に入る。

木曾川の灌域は地味肥沃、河流は運輸灌漑に便なりと雖も、後に雨量多き高原を貢ふを以て水害を蒙ること尠からず。

岐阜の東に各務野及加茂野、西北に大野あり。三野國中にあるを以て、美濃(三野)の國名起れりといふ。

三重縣

三重縣

は伊賀、伊勢、志摩及紀伊の内二郡を管轄す。縣廳は津市にあり。

結城神社は南朝の忠臣結城宗廣を祀る

津市(人口三万)と一に安濃津と稱し、東阿漕浦に臨む。近傍に結城神社あり。津より一身田を過ぎ、龜山を経て、鐵道は左右に分る。西、鈴鹿峠を越ゆれば、滋賀縣に入る。所謂鈴鹿の關趾あり。南、伊賀に入れば、上野に達す。畿内に通ずる伊

賀越の要衝に當り、傘を名産とす。名張は其南にある名邑なり。

四日市は特別輸出港の一

龜山より東北、能褒野の近傍を過ぎて、四日市(人口二万四千)に至る。港内水深く、横濱との間に定期航海あり。製造業又盛んにして、洋紙及綿絲の産額多し。桑名は其北にあり、木曾河口に臨む。尾張熱田に渡る要津にして、富商多く、商業盛なり。時雨蛤及白魚は此地の名産と稱せらる。附近より万古焼を出す。

宇治、山田は相連りて一市街をなす

津より河漕浦の近傍を過ぎ、松阪に至る。これより櫛田川宮川を渡りて、宇治山田に達す。宇治に天照皇大神を祭れる内宮あり。山田には豊受大神を祭れる外宮あり。諸國より参拜するもの四時絶えず。春慶塗及神路山の杉の細工は

有名なり。朝熊山、二見浦は其近傍にありて名高し。

宇治山田の東南に鳥羽港ありて、碇泊に便なり。昔は伊豆の下田港と、東西遙に相對し、遠州洋を航する船舶の、必ず寄港する處なりしが、現今は其繁昌を四日市に奪はれたり。山田より宮川の流域に沿ひ、紀伊に入れば、尾鷲に至る。其西南熊野川の沿岸に、瀨八町の佳景あり。

内宮は垂仁帝の御代、大和笠縫邑より遷座せられたり。境内幽邃にして、人をして自ら崇敬の念を起さしむ。外宮は雄略帝の御代、丹波奥名井原より遷されたり。何れも二千年來の靈境なり。

山田以南の海中に、斗出する一小區を志摩となす。紀伊山脈の東端なるを以て、平坦の地なく、東西三里、南北七里

に過ぎざる小國なれども、海岸の屈折出入極めて多きは、其類少し。

和歌山縣 は紀伊の内一市七郡を管轄す。縣廳は和

歌山市にあり。

徳川氏五十五
万石

和歌山市 (人口五万七千) は紀伊川の河口にあり、徳川氏の親藩を置きし地にして、大阪より凡そ十八里。綿フヲ子ル紋羽織を名産とす。水陸運輸の便あるを以て、商業盛んに行はれ、主として大阪と取引す。近傍に和歌浦あり、風光頗る明媚なり。

和歌山より紀伊川沿岸の大和街道を上れば、高野山の麓に至る。山上に有名なる金剛峯寺あり、昔は僧坊三千もありし靈場にして、高野豆腐の名世に高し。これより更に進めば

聖武天皇明光
浦の名を給ふ

奈良縣に入り、五條に至るべく、これと共に紀伊川は吉野川と稱せらる。

和歌山より南方二里餘の處に、漆器を産する黒江あり。

これより以南には有田川、日高川西流して、紀伊海峽に注ぐ。

兩川の間、比井崎ありて、阿波の蒲生田岬と相對す。有田川

の灌域は多く蜜柑を産す。紀州蜜柑と稱するものこれなり。

日高川を渡り、尙ほ海岸に沿うて、南進し田邊を経て、終

に極南の潮岬に達す。此岬の東西は紀州洋と稱し、航海危険

なり。大島は其東にあり、これより東北に新宮あり、熊野川

其東を流れ、那智山其西に聳ゆ。有名なる那智の瀑布は、那智

山の半腹に懸り、遠く紀州洋より望むを得べし。

新宮より熊野川の沿岸を上れば、温泉ある本宮に至り。

那智瀑は直下八十餘丈本邦第一と稱せらる

尙ほ進めば奈良縣に入る、これと共に熊野川は十津川と稱せらる。

和歌山の西北に田倉岬あり、淡路の生石崎と相對して、

由良海峽をなし、兩岬の間に友島あり、大阪灣の咽喉を扼

して砲臺の設堅固なり。

潮岬以東の沿海を熊野浦といふ、捕鯨盛んにして、鯨節

又名あり。

德嶋縣

は阿波全國を管轄す。縣廳は德嶋市にあり。

德嶋市(人口六万一千)は吉野川の南岸に位す、蜂須賀

氏の舊城地にして、緘織の夙に名高し、北方數里の處に撫養

港あり、淡路に渡る要津にして、齋田鹽を産す。鳴門海峽は其

北にあり、潮流の急なること本邦第一にして、渦流を成し、舟

蜂須賀氏二十五万石

德嶋縣

行危険のところなり。

徳島より吉野川の灌域を上れば、藍作の盛んなる脇町地方を過ぎ、煙草の産ある池田を経て、愛媛縣に入る。劍山は其東南に聳ゆ。

徳島より更に南に向ひ、製鹽に名ある小松島に出で、那賀川を渡りて富岡に至る。此地も亦製鹽盛んなり、これより日和佐を経て、遂に高知縣に入る。

阿波は四國山脈中央を東西に走りて、地勢を兩分し。北に吉野川あり、南に那賀川あり、吉野川の灌域は平坦肥沃にして、頗る農産に富む。

高知縣

高知縣

は土佐全國を管轄す。縣廳は高知市にあり。

高知市(人口三万五千) 山内氏の舊城地にして、國の

中央にあり、鏡川に臨み、南浦戸港に通ず。浦戸は現今一小村落なれども、昔長曾我部元親のこゝに居城を構へて、四國全島を征服せしところなり。これより南方に進み、良港の名ある須崎を過ぎ、中村を経て、渡川(四十川)を渡り、捕鯨の盛んなる蹉跎岬の頸部を過ぎて、宿毛に至り、愛媛縣に入る。

高知より仁淀河谷を上れば、又愛媛縣に入り、久方に達すべし。高知より更に東方に向ひ、物部川の河口に至れば赤岡あり、其東に安藝の名邑あり、これより陸地は漸次東南に突出し、室戸崎に終る。此岬と蹉跎岬との間は、即土佐灣なり。

土佐の沿海は水産の利尠からず、殊に鯉節、珊瑚は世に

名高く、捕鯨の如きは紀州と等しく、國益をなすこと大なり。

本縣は降雨多量にして、氣候温暖なるを以て、其沿岸は甘蔗、藍、蜜柑の如き半熱帶の植物に富む。

宮崎縣

は日向の内七郡を管轄す。縣廳は宮崎町にあり。

宮崎町は大淀川の河口に跨り、南部の一都會なれども、商業微々として振はず、人口僅に七千餘。佐土原は其北方にあり、一瀨川の灌域に位して、其近傍より良米を産す。高鍋は又其北にありて、高鍋川に臨む。これより北に美々津川流れて、河口に同名の港を有せり。其東北には細島崎斗出して、細島港を抱く。

延岡は國の北部を流る、五箇瀨川の灌域にあり、商業盛んなり。これより五箇瀨川の上流に至れば、高千穂と稱し、天孫降臨の靈地と傳ふるところあり。

宮崎より南方に**飢肥**あり。其東南の**油津港**は稍良港の名あり。都井崎其南端に突出して、志布志灣を擁す。

大淀川上流の灌域は稍平坦にして、田圃相連り、米麥の外、甘蔗、甘蔗を産す。**都城**は、宮崎より大隅に通ずる街道に當り、頗る繁華なり。ここに高千穂の宮趾ありて、歴史上有名なり。霧島山は其西北にあり。

日向は九州最大の國にして、河流多く、舟運灌漑の利に乏しからず。雖も、人烟稀疏にして、繁華の都會を見ることを得ず。東方一帯は日向洋を控へ、海岸屈折少く、砂州頗

霧島山は東岳
西岳に分れ
岳の頂上を
千穂と稱す
天逆矛あり

る多し、河流は概ね東に向ひ、河谷には尙ほ未墾の平地多
く、西南地方は平坦にして、肥沃なり。

鹿兒島縣

は薩摩、大隅及日向の内一郡を管轄す。縣
廳は鹿兒島市にあり。

島津氏七十七
万石

城山は西郷隆
盛終焉のどこ
ろ

鹿兒島市(人口五万四千)は島津氏の舊城地にして、鹿
兒島灣に臨む、城山其北を繞り、市况頗る盛んにして、飛白、煙
草、陶器を出す。櫻島は其前に横はり、北岳(三千八百餘尺)其中
に屹立す、有名なる活火山なり。

鹿兒島の南に谿山の小邑あり、錫を産す。この近傍に軍
馬育成場あり。此地より海に沿ひ、指宿を経て、山川港に
達す。西に開聞岬突出し、薩摩富士の名ある開聞嶽其北に聳
ゆ。北麓に池田湖あり、周圍凡五里、頗る灌漑の利あり。枕崎

坊津は往時唐
船の來れると
ころ

高屋山陵は彦
火々出見尊を
葬り奉れると
ころ

は其西にあり、又其西に坊津あり、加世田は其北に當る。
鹿兒島より西北に向ひ、芹野金山の附近を過ぎ、川内川を
渡り、焼酎醸造を以て、有名なる阿久根及出水を経て、熊本
縣に入る。甌島列島は其西方にありて、魚鹽の利尠からず。

鹿兒島より東北に向ひ、加治木に至り、高屋山陵ある濱
市を経て、國府煙草を以て名ある、國府の近傍を過ぎ、鹿
兒島灣に沿ひ、福山に達し、東北に進みて宮崎縣に入る。霧
島山は其北方に聳ゆる活火山にして、日向に跨る。南麓に霧
島神宮あり。

薩隅諸島は薩摩、大隅より西南に當れる列島の、與論島に
至るまでを、總稱するものにして、種子島、屋久島、川邊十島、大
島、喜界島、徳島、沖永良部島、與論島等を含めり。南部の諸島は

多く砂糖を産し、沿海は鯉、鯖等の魚族に富む。

種子島は佐多岬の東南十里許にあり、天文年間、ポルトガル人の始めて鳥銃を傳へしにより、名高し。屋久島には八重岳六千二百尺高く聳ゆ。

川邊十島の黒島は樹木繁茂し、竹島には竹の名産あり、硫黄島には僧俊寛の遺蹟あり、又硫黄を産す。

大島、喜界島、徳島、沖永良部島、與論島は北部の諸島に、大に言語、風俗を異にし、全く琉球の風あり。大島の名瀬港は、島廳の所在地にして、稍船を泊するに足る。大島には數多の良港あり。

熊本縣

細川氏五十四万石

熊本縣

は肥後全國を管轄す。縣廳は熊本市にあり。熊本市(人口五万二千)は細川氏の舊城地にして、白河に

熊本城は明治十年の役、谷少將の固守したるところ

沿ふ。加藤清正の築ける熊本城は、市の中央に位し、今第六師團を置く。市内に第五高等學校あり。商業盛んにして、綿織、草帽子の製産、頗る多し。

菊池

熊本より北方に進み、明治十年の役、官軍の苦戦したる植木及田原阪の近傍を過ぎ、菊池川に達す。此河口に接して高瀬あり、隈府は此河の上流にあり、菊池氏の古蹟にして、菊池神社あり。阿蘇山は其東南に聳ゆ、信州淺間山に亞げる著名の活火山にして、其麓には温泉多し。これより白河に沿ひ、熊本を過ぎ、河口に至れば百貫石あり。肥前に渡る要津なり。

熊本の南方、緑川の北岸に川尻あり、此地の西南海中に突出するは宇土半島にして、頸部に宇土あり。西端に三角

球摩川は日本
三急流の一

八代海は有名
なる不知火の
現はる、所に
して往古肥後
を火の國とい
ひしは之に出

港ありて、特別輸出港の一なり。宇土より南に進み、八代に達す。菊池氏の古城地にして、球摩川の急流、國見岳より發するもの、此町の南方に來り、八代灣に注ぐ。セメントは此地にて製す、東方の山中に五家の莊あり。

八代以南の海岸は、著しき屈折なく、右に天草列島を望み、左に平野を見る。此平野は肥後米を産する所にして、地味農産に適す。此國の山林は、又良材を産すること、尠なからず。人吉は球摩川の上流にあり、日向、大隅に通ずる要路に當る。

三角港の南西、海中に羅列するは、天草列島にして、下島（周圍七十里、最も大に、上島周圍三十七里）これに次ぐ。諸島は地勢概ね險峻にして、平地少く、地味は肥瘠相交り、海岸は魚鹽の利あり。諸島の西は天草洋にして、賴山陽の詩を

以て有名なり。

長崎縣

は肥前の内一市、六郡及壹岐、對馬二國を管轄す。縣廳は長崎市にあり。

長崎市（人口七万四千）は五港の一にして、控訴院及第五高等學校醫學部あり。市街は山を負ひ、土地狹隘、且高低あり。雖も、港内水深く、自然の良港なり。輸出物産は石炭、鰯、米、樟腦、椎茸等にして、總價額約五百五十万圓。輸入物品は石油、砂糖、生牛皮、繰綿等にして、總價額約一千四百六十万圓。（明治三十一年調査）

長崎の西南海上に高島あり、もと炭坑を以て名あり。五島列島は其西にあり、福江、中通を最とす。長崎より大村灣頭の大村を過ぎ、東岸に沿ひ、佐世保に至る。此地は第三鎮

守府の所在地にして、東北西の三面、山を以て圍まれ、港は南に向ひて水深し。

長崎の東方に島原半島あり、有名なる活火山温泉岳其中、中央に聳ゆ。東海岸に島原あり、商況繁盛なり。此半島沿岸各地は、牧場に適し、盛んに牛馬を畜ふ。島原の西南に口津港あり、特別輸出港の一にして、石炭を輸出す。

壹岐、對馬は肥前の西北海中にあり。日本海より黃海に通ずる咽喉に位す。兩國共に海岸の出入多く、良港に乏しからず。沿海は鯨、鯉、鰻、鱒、海參及藻類の漁獲多く、古より屢外寇の侵せし所なるを以て、今尙ほ遺蹟を傳ふるもの尠からず。

肥前に屬する島嶼の中、平戸島及五島列島は最も著名にして、前者は平戸海峽を距て、位し、平戸町其北岸にあ

平戸港は昔和蘭と始めて貿易を開きし處なり

り。後者は其西南に並行し、大さ壹岐より大にして、沿海捕鯨の盛なること、紀伊、土佐も遠く及ばずといふ。

壹岐の勝本は良港にして、對馬の嚴原と對馬海峽を隔て、相對す。對馬は南北二島に分る。其相接する所の海峽に竹敷の要港ありて、堅固の砲臺を設く。嚴原は南島の東岸に位し、對馬島廳の所在地にして、警備隊の設あり。鹿見、佐須奈と共に、朝鮮との特別輸出入港なり。

佐賀縣

市にあり。

は肥前の内一市、八郡を管轄す。縣廳は佐賀

佐賀縣

鍋島氏三十五万石

佐賀市（人口二万七千）は鍋島氏の舊城地にして、富商多く、市街は端正にして、商況盛んなり。九州鐵道は福岡より、鳥栖を過ぎて、此地に來り、西方武雄に向ふ武雄には有名

の温泉あり、有田は其西にありて、精巧なる陶磁器を産し、北方の伊万里港より輸送す、由りて伊万里焼の名あり。唐津は伊万里の東北にあり、唐津灣に臨む、特別輸出港の一にして、附近の地盛んに石炭を産す。唐津焼亦名あり。古の領巾振山は其東に峙つ、名古屋（海邊）は東松浦半島の北端にあり、征韓の役、豊臣氏の本營を設けし處なり。

本縣は北西一帯、山脈ありて地勢平夷ならず、然れども筑後川の灌域は平坦にして地味肥沃、盛んよ米、麥を産す。南は即筑紫洋にして、潮汐干満の大なること、本邦第一と稱せらる。

福岡縣 は筑前、筑後及豊前の内一市四郡を管轄す。

縣廳は福岡市にあり。

潮の昇降差十八尺に及ぶことあり

福岡縣

黒田氏五十二万石

高山正之の墳墓は久留米にあり

福岡市（人口六万一千）は黒田氏の舊城地にして、其港を博多と稱し、名高き博多織を産す。古來外國船來泊し、現に特別輸出港にして、又朝鮮に對する特別輸出入港の一なれば、商況頗る盛んなり。具原益軒は此地の人なり。これより東南五里許に太宰府あり、古、太宰府を置きし地にして、菅原道眞を祀れる太宰府神社あり。途に水城の古趾を見る。

久留米市（人口二万七千）は筑後川の中流に臨み、綿織及飛白を以て名高く、商業頗る繁盛なり。河口に下れば若津港あり、肥前、肥後よ渡る要津なり。此地の南方に柳川あり、商況は久留米に次ぐ、鐵路は此地の東部を南に走り、三池を経て、熊本に連絡す。

三池は本邦屈指の産炭地にして、水陸運輸の便あるを

香椎は仲哀天皇の行在所ありしところ

蘆屋港は神武天皇東征の時過ぎ給ひしところにして豊臣秀吉朝鮮征伐の際に蘆屋港に艦装せり

以て採掘頗る盛んなり。大牟田は海岸にありて、石炭輸送の要津なり。

博多より東北に向ひ、箱崎、香椎を経て、遠賀川を渡り、折尾に至る。箱崎は箱崎宮(箱崎八幡)を以て名高く、香椎は香椎宮を以て著はる。遠賀河口に蘆屋港(舌の岡)あり。此邊は地味肥沃にして、米、麥、煙草、甘蔗及藍を産し、又生蠟を製す。

鐵道は折尾より三派に分る。北に向ふものは洞海に瀕せる若松港に至り。南に向ふものは遠賀川に沿ひ、途にして飯塚及豊前の金田の二方に分岐す。二路共に著名の石炭坑區を過ぐ。

小倉(人口二万)は豊前の北部にあり、第十二師團司令部

の所在地にして、小倉織の特産を以て有名なり。これより東北三里に門司港あり。馬關海峽を隔て、赤間關に對す。九州鐵道の起點にして、特別輸出港の一なるが故に、市街漸く繁盛を加ふ。

本縣は東南に山脈あれども、北方沿海の地を低平にして、農産物多く、九州中人口最も稠密なるところとす。

筑前は昔九州の政務を司る太宰府のありしところにして、常に外交の衝に當り、遺蹟頗る多し。

島根縣は出雲、石見、隱岐三國を管轄す。縣廳は松江

市にあり。

松江市(人口三万四千)は宍道湖の東岸にあり、小汽船東西に往復して、交通の便あり。市の近傍は製絲、製茶及陶器

島根縣

製造の業盛んにして、湖中には鱸の産あり

松江より西に進み、簸川を渡り、杵築に至る。有名なる出雲大社はこゝにありて、大己貴命を祀る。簸川は源を船通山に發し、矢道湖に入る。此上流は所謂簸の川上にして神代の古蹟あり、此川と神門川の灌域は、米穀の産額少からず。

杵築より海岸に沿ひ、石見に入り、三瓶山を望みて、大森に至る。此地より大江高山の南麓を過ぎ、江川を渡り、濱田に向ふ、上流地方は砂鐵及銅を産す。

濱田は日本海に臨める一良港にして、製紙、製絲を以て聞ゆ、近來特別輸出港の名を得しも、未だ盛ならず、これより益田を経て、鮎を以て名高き高津川を渡り、津和野に至り、徳佐峯の南麓を過ぎ、山口縣に入る、笹谷の銅山は其近傍

高津川口に歌
聖柿本人麿の
祠あり

富田の城は尼
子氏の據りて
雄を中國に振
ひしとて、城
其滅ぶと久し
守七年の久し
きに堪へし

にあり。

松江の東南、廣瀬には富田の城趾あり。廣瀬より半鹹の中海に出で、安來を経て、鳥取縣に入る。

隱岐島は出雲の北方にあり、沿海は水産に富む、鰯は殊に名産にして朝鮮、支那等に輸出す。西郷港は其島後にあり、灣内水深く、日本海の良港と稱せらる。

隱岐は四大島より成り、西島、中島、知夫里島は出雲に近きを以て、島前といひ、他の一島を島後といふ。西島には後醍醐天皇の黒木御所の舊跡あり。中島には後鳥羽上皇の御火葬場あり。地味極めて礫確にして、耕耘に適せず、住民は漁業を主とす。

鳥取縣

鳥取縣

は因幡、伯耆二國を管轄す。縣廳は鳥取市に

あり。

鳥取市(人口二万八千)は加露川に臨み、南は其河流に沿ひ、中國山脈を越えて、姫路に至るべく、北は加露港に通ず。東には岩井の温泉ありて、但馬の境に近し。

鳥取より西方湖山池の近傍を過ぎ、天神川に出づ。其上流に倉吉あり、木綿及飛白を産す。船上山は其西にあり、其脈西方に延びて、大山に連る。大山は中國第一の高山にして、山麓は大山原と稱し、牛馬の牧畜盛んにして、京阪地方の食牛は、此地方より輸送するもの多し。

淀江は大山の西北海岸にあり、日野川其西を流る。此川の上流は大に砂鐵を産し、其河谷は山陰、山陽の連絡線となる。河口の西方に、長く海中に斗出する砂嘴を夜見濱といふ。

船上山は名和長年の管て王事に勤勞せしと云ふ名和神社は名和村にあり

綿を産すること夥し。其基脚に米子あり、北端に境港あり、船舶の碇泊に便なり。

本縣は土地狹長にして、其幅、廣きも十里を出づる處稀なり。南方は山又山を疊み、海岸は平坦なれども出入極めて少く、良港に乏し。されば此地方に涵養せらるる河流は、短く且急にして、西部にある日野川、東部にある加露川は、其重なるものなり。

福井縣

は越前及若狹を管轄す。縣廳は福井市にあり。

福井市(人口四万三千)は足羽川に跨り、松平氏の舊城地にして、奉書紬を産す。古は北庄と稱し、柴田勝家の據りしところなり。九頭龍川は足羽川、日野川を合せ、北に流れて海

松平氏三十二万石

福井縣

に注ぐ、河口に三國港あり。

九頭龍川の河口なる西藤島に藤島神社あり、南朝の忠臣新田義貞を祀る。福井の東に大野あり、奉書紬、羽二重を製すること盛なり。

福井より鯖江を過ぎ、武生に至る、此地は蚊帳及鳥子紙の製造を以て聞ゆ。これより西南に進み、木芽嶺の新道に従ひ、金崎に達す。此地は敦賀に接續し、金崎宮あり。

敦賀は敦賀灣に臨み、灣内水深く、北國第一の要港にして、南は鐵道に依り、東海道線に連絡すべし、氣比神社此地にあり。これより汽船に乗じて、若狹の小濱に達すべし、小濱は若狹塗を以て著はる。

本縣は地勢自ら二部に分れ、東部の廣大なる地は即越

金崎に南朝の
古城址あり
金崎宮は後醍
醐天皇の皇子
尊良恒良二親
王を祀る
氣比神社は仲
哀天皇神社
后を祀る

石川縣

前田氏百二万石

前にして、海岸の凹凸少く、西部若狹の地は狹長なれども、海岸の出入甚しく、頗る魚類に富み、若狹鯛の名世に高し。

石川縣

は加賀及能登を管轄す。縣廳は金澤市にあり。

金澤市（人口八万一千）は前田氏の舊城地にして、犀川に臨み、西北に金石港を控へ、第九師團司令部及第四高等學校あり。市民は商工の業を勉め、絹織物、象眼細工、陶器、銅器等を出す。

金澤より河北潟の近傍を過ぎ、能登に入り、寶達山脈に沿ひ、七尾灣の南岸なる七尾に至る。七尾灣は畧ぼ國の中部にあり。周回約三十里、灣内水深く、能登島其中央にあり。輪島は北方にあり、國中第一の都會にして、精巧なる漆器（輪

島塗を以て名あり。

金澤より西南に向ひ、手取川を渡る。手取川は源を白山(八千七百尺)に發す。これより尙ほ西南に進み、陶器と木綿とを産する小松に出づ。安宅川其近傍を流る。此川の上流には銅山多し。古の安宅關は此川の下流なりしも、今は遙なる海中にありといふ。小松より大聖寺を経て、福井縣に入る。

能登は唯南部に、西南より斜に東北に亘る平地あり。其他は地味礫礫を極め、農作に適せざるが故に、主産物は農産にあらずして、工藝品若くは海産物なり。食鹽は日本海沿岸中にては、産額第一と稱せらる。

富山縣

は越中全國を管轄す。縣廳は富山市にあり。

富山市(人口五万八千)

神通川の下流に臨み、商業繁盛

魚津の海上に
ては春夏の候
辰氣樓を見る
ことあり

にして、古來藥商及金屬器製造を以て名あり。其東北に漆器及織物を産する魚津あり。更に東北に向ひ、黒部川を渡り、越後の境に至れば、有名なる親不知の險あり。

富山より西に進み、射水川の沿岸に高岡市(人口三万)あり。富山に次ぐ都會にして、銅器及漆器を以て名あり。射水川に沿ひて下れば、右岸に近く新湊あり。左岸に接して、伏木あり。

伏木は特別輸出港の一にして、米を輸出す。氷見は其北にあり、針を出す。高岡の西方に、昔源義仲が平維盛を破れる、有名之俱利伽羅峠あり。其西坂は即加賀の地なり。

黒部川は源を立山に發し、樺、杉等の木材を運送するに便なり。此川に日本三奇橋の一と稱せらる。愛本橋を架

す。立山々中には地獄谷と稱する處あり、常に硫烟を噴出す。

滋賀縣

は近江全國を管轄す。縣廳は大津市にあり。

往昔天智天皇
皇都を此に奠
め給ふ

粟津原は源義
仲の戦死せし
ところ

井伊氏二十五
万石

大津市（人口三万二千）は琵琶湖の西南岸に臨み、第四師團の分營あり、水陸交通の便を有し、商業頗る盛んなり。これより粟津原を過ぎ、草津に至る。關西鐵道はこゝに分岐して、伊賀に入る。本線は野洲川を渡り、八幡の近傍を過ぎ、烟草及藍の栽培に適する愛知、犬上兩川の灌域を経て、井伊氏の舊城地なる彦根に至る。

米原は彦根の北東にあり、敦賀より來る鐵道と會し、東北に進みて岐阜縣に入る。伊吹艾は此附近より出づ、長濱

姉川は織田信
長と淺井朝倉
と戦ひしところ

は米原の北にあり、縮緬を以て有名にして、大津と漁船の交通盛んなり。これより姉川を渡り、余吾湖の近傍を過ぎ、柳瀬を貫き、福井縣に入る。羽柴柴田の古戰場なる賤岳は、余吾湖南にあり。

大津より湖水の西岸に沿ひ、三井寺に至る。後に比叡山聳は、比良岳其北に峙てり。

琵琶湖は風景に富むのみならず、湖上に漁船往來して、運輸の便多し。周圍は地勢低平にして、地味膏腴、頗る米穀に適し、湖中には魚類多く、源五郎鮒最も著はる。

本縣人は農商を勵み、男子は行商をなすもの多く、頗る忍耐勤儉にして、近江商人の名世に高し。

京都府

は山城、丹後及丹波の内五郡を管轄す。府廳

京都府

は京都市にあり。

京都市（人口三十三万二千）は山城の中央にあり、加茂川に臨む。京都帝國大學、第三高等學校、美術學校、博物館の設あり。街衢整正。大路東西に走る。三條通以北を上京とし、以南を下京といふ。市の北部には御所あり、西方には二條の離宮あり。

加茂川は市の東部を流れ、昔はこれより以西を洛中とし、以東を洛外とし稱したり。川には數多の橋梁を架す。近來琵琶湖の疏水を引きて、工業及運輸の便を助く。此地は四周皆山にして、河川其間に貫流するが故に、山水の景に富み、名勝頗る多し。桓武天皇延暦十三年、ここに皇居を奠め給ひし以來、千七十年餘間、帝都たりしを以て、古跡亦甚だ多し。春は嵐

山の櫻花を愛すべく、秋は高尾の紅葉を賞すべし。其他平安神宮、泉涌寺、北野社、豐國神社、東本願寺、西本願寺、金閣寺、銀閣寺等最も著はる。物産は西陣織、友禪染、清水焼、粟田焼等名あり。

京都の北は山多く、近江の境に峙てる。比叡山には、延暦寺あり。愛宕山は國の西北隅にありて、桂川其麓を流る。此川の灌域を過ぎ、丹波に入り、龜岡を経て、福知山に至る。地方の一商區にして、第十師團の分營あり。

福知山より由良川に沿ひ、大江山の東麓を過ぎて、舞鶴に至る。港内水深く、第四海軍鎮守府の指定地なり。これより由良川を渡り、與謝海（宮津灣）に臨める。宮津に達す。市街繁盛にして、特別輸出港の一なり。其近傍に有名なる天橋立あり。

り、眺望絶佳、日本三景の一と稱せらる。此國は蠶業盛んにして、縮緬の産出夥しく、峯山は殊に盛んなり。

京都より西南に向ひ、天王山麓なる山崎を過ぎ、大阪府に入る。伏見は京都の南方二里にあり、京阪及奈良に通ずるの要路に當り、工兵隊を置く。其西南の八幡に男山神社あり。宇治川の南岸には宇治あり、此地の平等院は今尙存す。近傍より茶を産す、宇治茶と稱するものこれより。西方に巨掠池あり、これより南方に進み木津に達す。其東方に聳ゆる笠置山は、後醍醐天皇の行在所たりし所なり。

本府の内、山城は千餘年間、帝都のありしところなりしが、維新遷都後は、東京の爲に其繁榮を殺がれたり。然れども名所、舊蹟の多きは、全國に比肩すべき處なく、尙ほ美術

平等院は往昔源頼政の自及せし處

工藝地の名を悉にす。

奈良縣

は大和全國を管轄す。縣廳は奈良市にあり。

奈良縣

元明天皇より七代八十餘年間の帝都

奈良市（人口二万九千）は往古帝都たりしを以て、南都又は平城の稱あり。三笠山市の東方に聳ゆ、春日神社其麓にあり。其西北の東大寺には、有名なる大佛を安置す。市内は舊蹟に富み、帝國奈良博物館の設あり、奈良晒、奈良漬、墨等は此地の名産なり。月瀬は東方木津川の上流にあり。

奈良より鐵道に依り、郡山及古刹法隆寺の近傍を過ぎ、

大和川の灌域に沿ひ、王寺に至り、こゝにて南に分れ、高田を経て、櫻井に達す。沿道の畝傍山下には、橿原神宮あり。多武峯は櫻井の南に峙ち、藤原鎌足を祀れる談山神社あり。

高田より南に向ひ、五條に至り、吉野川に沿ひ、吉野山に

上る。此山は櫻花を以て名高く、南朝の皇居たりしを以て、歴史上の遺跡多し、吉野紙、吉野葛、吉野漆等は此地方より産す。山上嶽釋迦岳等は其南に連り、吉野十二峯の稱あり。十津川は此北部に發源し、南流して紀伊に入る。

本縣の中部即吉野川の灌域は、北部の低地と大に趣を異にし、山岳重疊、交通不便にして、河流南より西に轉じて、紀伊に入る。これより以南は、地勢愈高く、良材に富み、十津川によりて紀伊へ輸送す。

大阪府

は攝津の内一市、四郡、河内及和泉を管轄す。

府廳は大阪市にあり。

大阪市（人口七十五万八千）は東京に次ぐ大都會にして、淀川に跨る。溝渠縱横に通じ、鐵道四方に連り、運輸頗る便

橋梁甚だ多く
八百八橋の稱
あり

市内を東西南
北の四區に分
つ

なり。此地は往昔難波津と稱し、仁徳天皇の都し給ひし高津宮の跡あり。豊臣氏築城以來、市況大に盛大に赴き、徳川氏の世に至りては、本邦商業の中心となり、最も繁榮を極めたりしが、維新以來外交の開くるに及び、港内水淺くして、大艦巨舶を入るゝ能はざるを以て、貿易の業やゝ減退せしが、現今尙關西の要樞に當り、貨物集散の地なるを以て、繁榮日に加はり、商業の發達、他の都會に優るもの甚だ多し。輸出品は、鰯、寒天、燐寸、綿絲、綿布類、酒等にして、總價額約二百三十万圓。輸入物品は米、豆、綿、砂糖等にして、總價額約四百四十万圓（明治三十年）なり。第四師團司令部、砲兵工廠、造幣局及控訴院あり。紡績會社は所々に散在し、綿布の産出甚盛なり。其他煙管、一貫張、眞田織等の工藝品又甚だ多し。市の東南隅にある四天

楠正行を祀れる四條畷神社は四條畷にあり

王寺、北方にある天満宮等は、共に市人遊覽の勝地なり。

大阪より淀川の灌漑を上げば、史上に名高き櫻井を経て、京都に至るべく、東に向へば四條綴テウナシの古戰場に達すべし。河内、大和の境は山岳相連りて、北より南に亘り、金剛山コウガンに及ぶ、其山腹に千早の城趾あり。

堺市サカイ（人口五万）は和泉にあり、大和川の口に臨む、大阪より阪堺鐵道に依りて至るべし。此地もど大阪灣中の要港なりしが、港内漸く埋れて、今は碇泊に便ならず、然れども尙ほ富商多く、鐵器及緞通の製造盛んなり。岸和田は其西南の一商區なり。

淀川は源を近江の琵琶湖に發し、茶の栽培に適する宇治地方を灌漑して、宇治川と稱せられ、少しく下りて、桂川

及木津川と淀に會合し、淀川となり、二派に分れて大阪灣に注ぐ。安治川は其一派なり、全長十五里。伏見より以下小湊船往來す。

兵庫縣

兵庫縣は攝津の内一市、三郡、丹波の内二郡及但馬、

播磨、淡路三國を管轄す、縣廳は神戸市にあり。

神戸市（人口十九万三千）は攝津の西部にあり、横濱と並び稱せらるゝ互市場なり。總出物産は米、茶、樟腦、燐寸、石炭、銅、陶磁器、水産物等にして、總價額約五千百四十万圓。輸入物は綿、綿絲織、石油、砂糖、金巾、豆類等にして、總價額約一億一千七十万圓。（明治三十一年末調査）此地はもと神戸、兵庫の二市街を成し、其中央に史上に名高き湊川あり、今は合して一市をなす。湊川神社は元の兵庫兵庫にありて、楠正成を祀る。紙及食牛を以て

名産とす。

神戸より東に向ひ、釀酒を以て名ある灘地方を過ぎ、西ノ宮を経て、武庫川を渡り、尼ヶ崎に至る。こゝに分る、鐵道は清酒を以て有名なる池田、伊丹の諸邑に通ず。尼ヶ崎より東に進めば、大阪府に入る。

神戸の後に武庫、摩耶の諸山相連り、其北に有馬の温泉あり。これより武庫川に沿ひ、丹波に入り、笹山に至るべし。神戸より須摩、舞子を過ぎて、帆木綿及明石縮を産する明石に至る。途に一ノ谷の古戰場あり。此邊は白砂青松相連り、前に淡路島を望み、風色絶佳なり。

明石より加古川、市川を渡り、姫路市（人口三万一千）に至る。第十師團司令部ありて、革細工、高砂染等を以て名あり。

播磨に近き鶴谷ノ一ノ谷と戦平ノ源を以て名高し

南は飾磨津を距ること遠からず、北は播但鐵道によりて、銀の産地として知られたる生野に通ずべし。

出石は但馬にありて、陶器を製す。其西北に豊岡ありて、柳行李を出す。附近に立武洞あり、城崎温泉は其北にあり。

姫路より書寫山を北に望みて、西に向ひ、揖保川を渡り、龍野に至る。此地は醤油を以て名高し。其西南に赤穂あり。海濱遠淺にして、製鹽に適し、佳良の品を出す。北方に白旗の城趾あり。室津は其東にある港なり。

淡路にては東岸にある洲本を第一とす。由良は其南にありて、由良海峽を扼し、福良は四國に渡る要津にして、鳴門海峽を挾みて阿波の撫養に對す。

淡路は北に狭く、南に開き、略ぼ三角形をなす。國內山地多し。雖も、地味膏腴にして、頗る禾穀に適し、人口極めて稠密なり。本國は魚介の利尠からず。殊に伊賀野焼は特有産物の稱あり。

岡山縣

岡山縣は美作、備前、備中を管轄す。縣廳は岡山市にあり。

池田氏三十一万石

岡山市（人口五万五千）は池田氏の舊城地にして、第三高等學校醫學部あり。市況頗る繁盛にして、旭川これを貫流す。河口は即ち三番港なり、前に兒島灣を控へて、兒島半島を望むべし。藤戸の渡は今は地頸となりて存す。

和氣は和氣清底の生地

岡山より東北に向ひ、吉井川（東大川）を渡り、和氣を過ぎ、蠟石を産し煉化石を製する三石に着し。舟阪山の隧道を

貫きて、兵庫縣に入る。和氣の南なる伊部は、陶器を以て著はれ。長船は刀劔を以て名高し。

津山（人口一万一千）は美作の中央にあり、（東大川）の上流に臨む。其四近は藍及烟草の栽培に適し、市街は足袋の製造に名を得たり。院庄は其西にあり、兒島高德の題詩を以て聞ゆ。これより高田川（旭川）の上流に沿ひ北に越ゆれば、即ち鳥取縣にして、四十曲は其間の峻阪なり。

岡山より吉備中山の附近を過ぎ、倉敷を経て、大川（川邊川）の下流なる玉島に至る。笠岡は其西にあり。秀吉の水攻を以て有名なる高松は、其東北にあり、大川の沿岸を上れば、高梁に至るべし。此地は備中第一の都會なり。

西大川（旭川）は岡山より、雲伯に通ずる要路にして、舟運

灌漑の利兼ね具はる。

大川(川邊川)は源を山陰、山陽の境に發し、玉島に至り、海に入る。頗る運輸灌漑の便あり。灌域は綿及蔴席を産す。

廣島縣

淺野氏四十二万石

二十七八年の役車駕を此地に進めしる

廣嶋縣

は備後、安藝を管轄す。縣廳は廣島市にあり。

廣島市(人口十萬七千) 淺野氏の舊城地にして、太田川に跨る。水陸の交通極めて自在にして、市街繁盛、第五師團司令部、控訴院ここにあり。線綿、蚊帳、牡蠣等を産し、中國第一の大都會なり。賴山陽は此地に生れたり。市の南方太田河口に宇品港あり、漁船の往復頻繁なり。港の西南に嚴島あり、市杵島姫を祭るの神社あるを以て、宮島とも稱す。竹細工を出す。

廣島より東南海岸に沿ひ、吳港に至る。第二海軍鎮守府

の在る處にして、前面の江田島には、海軍兵學校を置く。これより海田市にかへり、東に進みて、備後に入り、煙草及鹽の産ある三原を過ぎ、尾ノ道に達す。向島其前に横はり、船舶の出入多し。鞆は其東南にある港にして、保命酒を産す。

福山 は其北にあり、線綿を出す。

尾道より國の中央を過ぎ、三次に出づ、山陰、山陽の要路に當り、市街繁盛なり。三次川はここに安藝の吉田川を合せて、石見に入り、江川となる。これより安藝に入り、吉田に至る。此地は毛利元就の居城ありし處なり、更に進みて、可部を過ぎ、廣島にかへる。

嚴島は日本三景の一にして、周回七里。社殿は平清盛の造營にかゝり、岸により、水に架し、廻廊長く繞る、故に海潮

滿つる時は、殿廊共に水上に浮ぶが如し。沿岸七浦の景あり。此島に毛利元就の陶晴賢を討ちし古跡あり。

山口縣

毛利氏三十六万石

山口縣

は周防、長門を管轄す。縣廳は山口町にあり。

山口町

はもと大内氏の居城にして、文化以後毛利氏ここに居る。四面山に圍まれ、山口高等學校の設あり。南東の海濱に三田尻あり、市街宮市に連り、漁船の出入多く、徳山は

其東方にあり。現今本州九州間交通の要點に當る。これより海岸に沿ひ、柳井津半島の頸部を過ぎ、柳井縞の産ある柳

井津に至り、轉じて北方に向ひ、岩國に達す。此地は岩國縮を産し、錦帶橋を以て名高し。

山口より西南に進み、長門に入り、厚東川を渡る。此川の上流は有名なる大理石の産地、秋吉臺にして、其西南海岸は石

炭を産し、小野田のセメント會社、其他の工場あり。既にして赤間關に入らんごす、其前二里、これを豊浦といひ、其西は即壇浦の古戰場なり。

赤間關市（人口三万六千）は特別輸出港の一にして、又特別輸出入港なり。内海の咽喉に當り、船舶の寄港するもの夥しく、石炭、米、綿布等を輸出し、豆、米等を輸入す。市況頗る盛んにして、良質の硯を産し、多額の煙草を製す。赤間宮は此市内にあり。

赤間關の東北に萩あり、毛利氏の舊城地にして、吉田松蔭、木戸孝允等此地に生る。往時は頗る繁榮なりしが、維新後大に衰退す。夏橙は此地の名産なり、其海岸は出入多きのみならず、島嶼夥しく、西北部は鯨獵を以て名あり。

壇ノ浦は源義經の平家を滅せしところ
赤間關は又馬關或は下ノ關といふもと長島の上ノ關と波郡中ノ關と稱せり

錦帶橋は一に算盤橋といふ日本三奇橋の一なり

馬關海峽は赤間關と九州の門司との間にあり。深さ三
仞乃至十仞。其東口は潮流急にして、これを早瀬、瀬戸とい
ふ。西口は周回三里の彦島横はりて、更に南北二口に分れ
北口には燈臺の設あり。

大分縣

大分縣 は豊前の内二郡と豊後とを管轄す。縣廳は大
分町にあり。

大分町 は別府灣頭にありて、鑄物及檜物細工を出す。こ
れより北三里に別府あり、有名なる温泉場にして、鶴見山
及豊後富士の稱ある由布岳、其西北に峙つ、何れも有名なる
火山なり。甘蔗、紙、煙草、蔦席等は多く此地方より産す。これよ
り國東半島の頸部を過ぎ、豊前に入り、宇佐に至る。宇佐神
宮ここにあり。

宇佐神宮は應
神天皇神功皇
后を祭る

耶馬溪は奇石
怪巖多く奇勝
を以て著はる

宇佐より驛館川を渡り、中津に達す。此地は山國川の東
岸にあり。これより以北は、福岡縣に屬す。山國川の上流に名
高き耶馬溪ありて、其水源は遠く豊筑の境なる英彦山に發
す。山上に英彦山神社あり。

大分より大野川を渡り、佐賀關半島に至れば、東端に佐賀
關あり、地方の要港なり。其南方に白杵、佐伯あれども、商況
盛ならず。

佐賀關半島の東端は地藏岬にして、伊豫の佐田岬と相
對し、海上三里、潮流急にして舟行頗る危険なり。これより
南方、日向の境に至るまでは出入多く、鶴見崎長く突出し、
魚鹽の利甚だ多し。

愛媛縣

愛媛縣

は伊豫全國を管轄す。縣廳は松山市にあり。

松山市（人口三万二千）は國の中央にあり。第十一師團の分營あり、木綿縞を産す。市の東北十餘町の處に、有名なる道後の温泉あり。

三津濱 は松山の北方にあり、船舶の出入多し。これより肱川を渡り、佐田岬に至る間は、海岸概ね屈曲に乏しきも、以南は出入甚しく、八幡濱、宇和島の良港あり。八幡濱は九州に渡る要津にして、宇和島は織物及紙を産し、頗る繁盛なり。松山より東北に今治あり。これより東南海岸に沿ひ、西條、新居濱等を過ぎ、香川縣に入る。此沿海は製鹽頗る盛んにして、南方の山脈には別子の銅山、市川のアナンチモニ山あり。

本縣と高知縣との境には、四國山脈東西に連亘し、石槌

香川縣

瓶森等の諸山聳ゆ、餘勢は石槌山より瀬戸内海に向ひ、高繩山嘴となり、地勢を東西に分つ。山脈以東は一般に地味肥沃なれども、西南は概して肥瘠相半し、農産の著しきものなし。

香川縣

は讚岐全國を管轄す。縣廳は高松市にあり。

高松市（人口三万三千）は水陸運輸の地を占め、商業頗る盛んにして、保多織を出す。屋島は其東方にある古戰場にして、志度 は其東南に當り、崇徳天皇の行在所ありしところなり。五劍山は其北に聳ゆ、もと五峰並立せしも、今は其一峰崩壊せり。

高松より白峰の近傍を過ぎ、丸龜に至る。此地に第十一師團の分營を置く。其西に多度津あり、船舶の寄泊するも

白峰に崇徳天皇の山陵あり、其宮趾を敷ケ岡といふ

屏風浦は僧空
海の生地或は
云ふ善通寺な
りと

の多し。これより善通寺を過ぐ、善通寺に第十一師團司令部あり、善通寺の南に琴平あり。背後の象頭山には有名なる金刀比羅神社あり。近海に屏風浦あり。観音寺は其西南に當る、亦一の名色なり。

本縣は本邦中面積最も小なれども、海岸は岬灣出入多く、幾多の島嶼海上に碁布す。依て漁業及製鹽業頗る盛んなり。

観音崎の東北に、醬油を以て有名なる小豆島、周回三十餘里あり。附近の諸島を合せて一郡をなす。

産業

(産業)

本區の東海道、東山道及北陸道に屬する部分は、米の産額多く、尾張、美濃、近江、加賀、越中等を主とし、伊勢、駿河これに次ぐ。麥は東海道及東山道には産すれども、北陸に乏し。茶は近江、駿河、遠江、伊勢を主とし、美濃、加賀等これに次ぐ。綿及藍は獨り東海道諸川の灌域に多し。紙は静岡、岐阜、福井の諸縣に産し、駿河半紙、美濃紙、越前奉書の名、夙に著はる。木材は静岡縣に多く、礦産は伊豆の石材、遠江の石油、美濃の大理石、加賀の銅稍各あり。

漁業は東海道、北陸道の沿岸、共に盛んにして、産額夥し。養蠶、機織は各地盛んに行はれ、就中三河木綿、尾張の鳴海絞、近江の長濱縮緬、越前の奉書紬、加賀絹等産額多く。陶磁器も亦名あるもの多く、尾張の瀬戸焼、伊勢の万古焼、伊賀の伊

賀焼、加賀の九谷焼等を最こす。

其他静岡の漆器、竹細工、尾張の七寶焼、伊勢の菜種、近江の蚊帳、岐阜提灯、飛騨の一位細工、若狭の鯛、若狭塗、加賀の象眼細工、能登の輪島塗等著名なり。

次に畿内、中國及紀伊、淡路にては大坂府及兵庫縣に米、麥の産出多く、岡山縣これに次ぐ。茶は山城に超ゆるものなく。煙草は備中、美作、丹波を推す。綿は河内に多く。麻は廣島、鳥取諸縣に産す。釀酒は攝津に最も盛んなり。

牧畜、製紙は中國に盛んに行はれ、但馬牛、石見半紙等名あり。

機織は京都府、大阪府、和歌山縣、兵庫縣等に盛んにして、京都の西陣織、河内木綿、和泉堺の緞通、和歌山の綿フヲチル、丹

後の縮緬、播磨の明石縮、周防の岩國縮等其名高く。疊表は廣島、岡山二縣に多く、就中備後の産を佳こす。

製鹽は瀬戸内海沿岸に産額多く、播磨の赤穂鹽、周防の三田尻鹽等著名なり。

礦産は中國に多く、兵庫、岡山、廣島、鳥取、島根の諸縣は銀、銅、砂鐵を産し、山口縣は石炭を出し、攝津に御影石、和泉に和泉石を産す。

其他京都の加茂川染、清水焼、大和の奈良晒、吉野紙、木材、和泉の陶器、紀伊の蜜柑、木材、淡路の三原焼、但馬の柳行李、白珊瑚、伯耆の木綿、出雲焼、出雲人參、隱岐鰯、播磨の姫路革、龍野醬油、美作津山の雲齋織、備後鞆の保命酒、安藝の牡蠣等著名なり。

四國及九州にては、各地米、麥の産額多く、筑前、肥後は殊に著はる。藍は阿波を第一とし、櫛は筑後、肥後に多く、煙草は薩摩、大隅、阿波を最とし、肥前、肥後等これに次ぐ。

製糖は四國悉く盛んなれども、讃岐に如くものなく、九州にては南部に多し。製鹽は香川、徳島、愛媛、大分の諸縣に多く、産額の夥しきは、全國に冠たり。

牧畜は九州に盛んにして、牛は北部に多く、馬は南部に多し。

鑛産は伊豫、日向の銅、薩摩、大隅の金、肥前、兩筑の石炭、薩摩の錫等著名なり。

織物は九州にて筑前の博多織、豊前の小倉織、筑後の久留米、肥前、薩摩、肥後等産額多く、四國にては阿波の縮、讃岐の保多織、

伊豫の松山縞等名高く、陶磁器は伊豫の砥部焼、肥前の唐津焼、伊万里焼、薩摩の薩摩焼等名を得たり。

其他土佐の半紙、土佐、肥前の鯨、土佐、薩摩の鯉節、日向の半切、椎茸等著名なり。

第三章

北區

北區は本州の北方に位する北海道本島と、其東北に羅列する千島列島とを總稱す、面積六千方里に餘り、其大さ本州に次ぐも近年の開拓に係るを以て、人口甚だ稀疎にして、東京市の半ばにも足らず。依りて特に北海道廳を置き、これを管轄す。

北海道本島(北州)

(區域)

渡島國、膽振國、日高國、十勝國、釧路國、根室國、北見國、天鹽國、石狩國、後志國、

(山系)

本區には、所謂樺太山系に屬する山脈(假りに蝦

區域

山系

北區

一四三

蝦夷山脈

北區

一四四

夷山脈と稱す。千島帯に屬する火山脈と相交叉して主脈を成し、他に一系列の火山脈あり、蝦夷山脈は、本島の北端、樺太島と相對する宗谷岬に起り、東北山脈となりて東南に走り、中央部に至りて、千島帯の爲に遮斷せられ、再び起りて日高山脈となり、襟裳崎に達す。

東北山脈は北見、天鹽の間にて、一連の山脈をなせども、山勢は急峻ならず、最高處と雖も僅に五千尺に過ぎず、中央部にては、千島帯の爲に遮斷せられ、一聯の山脈をなさず、宗谷岳、天鹽岳等此中に在り。

日高山脈は、頗る高峻を極め、夕張カムイ岳等は其の高峯なり。

千島帯火山脈

千島帯火山脈は、千島列島より起り、本島に入り、知床岬に

現はれ、斜に西南に走り、蝦夷山脈を遮斷し、本州の脊梁をなす。

千島帯火山脈は、知床岬より、北見と根室及釧路との境をなし、ラウシ山、雄阿寒岳、雌阿寒岳等起し、山勢西南に轉じて、十勝、石狩の國境をなす、此中に石狩岳、十勝岳等の高峯聳ゆ。

他の火山脈

以上の外二箇の火山脈あり、其一は室蘭岬より、西南半島の頸部を横過するものにして、樽前岳、有珠岳等あり、他の一は噴火灣の東南、恵山岬より、西北に向ふて、走る火山脈にして、恵山、駒岳等此中にあり。

北州を石狩の平野より、南方、苫小牧に達する低地を以て、東西兩部に分たは、東部は概ね西部に比し、山岳の傾斜

北區

一四五

緩にして、低き山地多く、西部は山勢急にして、地勢大に本州の北部に似たり。

水系

太平洋斜
面區域

(水系) 北州の山岳は、西南半島部を除き、多くは急峻ならざるを以て、河流も亦其水勢緩にして、流程長し、河口には往々土砂堆積し、河水停滯して、所々に沼湖を成せる者多し。太平洋斜面區域は、千島帶火山脈及半島部脊梁によりて限られ、太平洋に向ひ、傾斜する部分にして、十勝、釧路の二川を大なりとす、河水は總べて南流す。

十勝川は、源を石狩岳に發し、日高山脈東麓の水流を集め、海に入る、河谷廣くして、水勢至て緩し、其灌域は所謂十勝の平原にして、水利に富むを以て、地味肥沃なり、大津及十勝は此河口にあり。

釧路は、十勝川の東にあり、水源は釧路湖に發す、釧路湖の西南には、阿寒湖あり、東方には、摩周湖あり、阿寒湖の水は阿寒川となり、釧路川と東西相對して流れ、海岸に近づき、相會す、河口に釧路あり。

根室の南方風蓮河口に北州第二の大湖、風蓮沼周圍十五里あり。

オコック
海斜面區
域

オコック海斜面區域は、東北山脈及千島帶火山脈の一部に依りて限られ、オコック海に向ひ、傾斜する部分にして、地勢大河を成すに足らず、湧別、常呂、網走の三河、稍大なるのみ、河水は皆北流す。

湧別、常呂兩河の間に、北州第一の大湖、猿澗湖周圍十八里あり、網走河口には網走湖あり。

日本海斜面區域は、惠山岬より半島部の脊梁及千嶋帶火山脈の一部、并東北山脈によりて限られ、日本海に向ひ傾斜する部分にして、本邦第一の大河石狩川、及天鹽川あり、皆西流す。

石狩川は、源を石狩岳に發し、長さ百六十七里、河口より二十里の間、汽船を通ずべし。其沿岸、殊に下流の地は、所謂石狩の平原にして、南北三十七里、幅平均五里、地味肥沃なり。札幌は其下流に會する一小支流の灌域にあり。

天鹽川は、天鹽岳に發し、河道大に屈折す、長さ七十里、北州第二の大河なり、其他半島部に後志川あり、其上流の西部に、洞爺湖あり、其下流の沿岸は、頗る平坦なり。

(沿岸)

北州の海岸は、西南半島部を除き、概ね平直にして、

彎曲に乏し。本州と津輕海峽を隔て、函館灣あり、北岸の函館は、開港場なり、其東の岬は即惠山岬にして、遙に陸奥の尻屋崎に對す、これより西北の大灣を噴火灣(一名内浦灣)といふ、數多の火山、其沿岸に聳ゆるを以て其名あり、灣の東端に、繪鞆岬突出して、室蘭軍港を擁す。

繪鞆岬より襟裳岬に至る間は、弓形に彎曲し、峭壁多く、良港なし、これより海岸、東北に延び、根室半島の納沙布崎に至る、海岸は大率砂濱にして、其間に厚岸、花咲の二港あり。

納沙布岬の北に根室灣ありて、灣内に根室港あり、これより知床半島の知床岬に至る、根室海峽を隔て、千島列島の國後島に對す、知床岬より宗谷岬まではオコツク海に面し、極めて屈曲に乏しく、良港なし、海濱は砂地にして、砂丘及潟

に富む。

宗谷岬は樺太島の南端に對し、宗谷海峽を挾む、其西方の二島は、禮文島、利尻島なり、宗谷岬より西南の半島部に至る間には、唯増毛の一港あるのみ、積丹半島西北に突出し、其端を積丹岬及神威岬とす、東方の小樽灣に、小樽港あり、南方の壽都灣に壽都港あり、これより奥尻島を望み、江差、福山を経て、南端に達す、即白神崎にして、陸奥の龍飛岬と相對す。

交通

(交通)

北州は、未だ開拓せざるころ多きを以て、一般に道路乏しく、唯東部、太平洋沿岸の南岸街道と、西部、日本海沿岸の北岸街道とのみ、稍見るべし。然れども開墾地には、新設の道路多く、交通に便なり。

鐵道線路は手宮より小樽、札幌、岩見澤を経て、幌内炭山に至るあり、岩見澤より更に支線を出して、空知、太歌志内等の炭山に達するあり、又南方室蘭より、苫小牧を経て、岩見澤に連絡する一線あり、此他釧路の國に標茶よりアトサノボリ等の硫黄山に通ずるものあり。近時官設の鐵道は上川まで延長せられたり。

東南部(太平洋斜面區域)

函館區(人口五万)は五港の一なる函館港に臨み青森を距ること二十餘里、控訴院の設あり、水陸の要衝に當り、商況頗る盛んなり、輸出品は水産物、硫黃、石炭等にして、總價額約百二十万圓、輸入物品は米、茶、石油及製造品にして、總價額約四十万圓(明治三十一年未調査)なり。

五稜廓は其東北、一里半にあり、維新の歴史に知られたる所にして、製氷盛んなり。

函館より惠山岬を廻り、森港に至る、駒ヶ岳は其後に聳じ、沿海は烏賊及鮑を産すること夥しく、近郊は米作に適す、噴火灣は畧ぼ圓形にして、四方十數里、室蘭港は其東端にあり。室蘭港は第五海軍鎮守府の指定地にして、特別輸出港

文政年間河野加賀守を近傍の海濱より望むに箱館の如し故に函館といふ

五稜廓は安政年間函館奉行の築きしとて外廓五稜をなす

の一なり。岩見澤に達する鐵道は、此地に發し、水陸交通の便あれども、港内稍狭きを覺ゆ、其北に紋鱈あり、有珠火山其北に峙つ、洞爺湖は其北にあり、其水流れて噴火灣に入る、有珠は其河口より西にある港なり。

室蘭より海岸に沿ひ、東北に進み苫小牧に至る、樽前山其西に聳え、支笏湖其麓にあり、其水出でて千歳川となり、北流して石狩に入る、此川の中流には、盛んに鮭の繁殖を圖れり。これより以東は、地勢緩にして、火山少く、農作に適す、日高に入れば漸く東方に高く、日高山脈斜に東南に走り、頗る高峻なり、染退、沙流等の諸川、此山脈に發し、西南に流る。然れども、氣候温和にして、牧草に富む、新冠は有名なる牧場なり、南端は即ち襟裳岬にして、往時は口蝦夷と、奥蝦夷との境と稱

襟裳岬以西を口蝦夷といひ、以東を奥蝦夷

と稱す

北區

一五四

せり、こゝより海岸北に入り、東北に向ひ、十勝國に入る、此邊昆布及鮭を産すること夥し。

十勝は、大國にして、十勝川これを貫流す、其灌域は即ち十勝の平原にして、北州大原野の一に數へらる、下流は分れて二派となり、海に入る、東なるを十勝川といひ、河口に十勝あり、西なるを大津川といひ、河口に大津あり。

アイヌ人の部落の中に源義経の祠あり、と云ふは未だ詳ならず、アイヌは本島先住の原人にして、跣足のもの多く、衣服は左衽にして、熊鹿の毛皮を用ひ、或は樺皮より製したる「アツシ」を着す、男子は鬚髯に富み、弓箭、鐵砲を携ひ、漁獵に従事し、女子は内にありて、衣食を調ふ。

十勝より海岸に沿ひ、釧路に至る、釧路は釧路川の河口

アイヌ人の部落の中に源義経の祠あり、と云ふは未だ詳ならず

硫黄は鐵道に依りて標茶に致り、次に舟運に依りて釧路に送る

にあり、特別輸出港にして硫黄を輸出す、こゝより河岸に沿ひ、標茶を過ぎて、跡左登に至るべし、此邊多く硫黄を産し、跡左登最も盛んなり。

釧路より東方に向ひ、厚岸灣に至る、灣の東方に同名の港あり、水深く舟を泊するに便なり、厚岸湖は此灣内にありて、牡蠣を産するを以て名あり、濱中は其東部に當る一小港なり。

これより東北部は根室國にして、千島の國後島に對し、納沙布岬長く突出して、西北に根室灣を擁す、根室は道廳支廳のあるところにして、千島列島の咽喉に當り、船舶の出入多く、海産物の取引盛んなり、花咲港は其背後の南岸にあり、根室灣結氷の時、船舶の碇泊するところなり。

北區

一五五

東北部。(オコック海斜面區域)。

根室より根室海峽を望み、知床半島の頸部を経て、北見に入る。此國は北方オコック海に臨み、南に千島帶、西に東北山脈連りて、地勢西南より東北に向うて、漸く低きが故に、河水は皆東北に流れ、大河と稱すべきものなし。

斜里より網走に出づ、此地は同名の川に臨み、頗る良港の名あり、網走湖は其西南にあり、これより能取湖の北を経て、常呂川を渡り、牡蠣を産する猿澗湖の沿岸を過ぎ、湧別川を渡り、紋別に至る、更に沿岸を西北に進み、宗谷に達す。

海岸は一般に平夷にして、砂丘多く、地味は悪しきにあられども、住民極めて少し、沿海は魚類に富み、就中鮭、鯨を多しとす。

雨雪の日は冬に多く其量は夏に多し

宗谷 は北緯四十五度以上なれども、氣候比較的寒からず、近海は鯨の漁獲多く、宗谷海峽を隔て、遙に樺太島の能取岬を望むべし、之れより稚内を経て、天鹽國に入り、天鹽河口の天鹽に達す。

西北部。(日本海斜面區域)。

天鹽 は天鹽川に臨む、鯨の漁場にして、其南方の留崩及増毛と共に、漁獵甚だ多く、昆布の産出亦饒なり、其西北海上に北見の利尻禮文の二島あり、共に漁場あるを以て知らる。増毛より東方の山脈を越ゆれば、石狩國の雨龍川谷に至るべく、海岸に沿ひ進めば、石狩川口の石狩に達すべし。

石狩川は源を石狩岳に發し、寒氣強き上川御料地の野を流れ、カムイコタンの急流となり、雨龍川と會して稍緩流と

なり、空知川、江別川、豊平川等を合せて海に入る、河流には鮭を産するこゝ夥しく、灌域は地味肥沃にして、北州第一の大原野と稱せらる。

札幌區（人口四万六千）は石狩川の一支流、豊平川に跨る、北海道廳及第七師團司令部の所在地にして、農學校の設あり、製糖、製麻の業盛んなり、これより炭鑛鐵道に依り、後志國小樽に至るべし。

石狩國の中央は、炭鑛に富み、空知川の近傍には空知の炭山あり、其南方に郁春別及幌内の炭山あり、更に南方に夕張炭山あり、共に、有名の産地にして、炭鑛鐵道に依りて、連絡せらる。

小樽（人口三万四千）は良好の地を占むるを以て、特別

輸出港の一に數へられ、北州中函館に次ぐ要港なり、これより、積丹半島の頸部を越へ、岩内に至る、積丹半島は銀、銅の産出多く、又砂鐵を産す、其尖端を積丹岬及神威岬となす。

岩内より後志川を渡り、尻別を過ぎ、壽都に至る、これより尙ほ海岸に沿ひ、遙に奥尻島を望み、渡島國に入る、遊樂部岳は國境に聳えて、滿庵の産地、其西麓にあり。

江差は渡島西海岸の都會にして、函館と汽船の往復あり、これより千軒岳の麓を過ぎて、福山に出づ、福山は松前氏の居城ありしを以て、もと松前と稱せり、これより白神岬を経て函館に入る。

千島列島。（千島國）。

根室國の東北なる國後島より、最北端占守島の間之列れる

松前はもと蝦夷の首都にして、當時の千軒と稱せり、松前千軒と稱せり。

三十餘島を總稱して、千島國といふ、總面積は略ぼ四國に等しく、ホツスル海峽によりて二部に分つを得べし、國後、色丹、擇捉、得撫の諸島は南部に屬し、新知、捨子、古丹、温禰、古丹、緹筵、占守、阿頼度等は北部に屬す。

南部諸島は、概して樹木に富み、又船を泊すべき港あり、北部諸島は樹木稀にして、良灣に乏し、沿海は寒流に洗はれ、波浪荒く、氣候寒冽なれども、沿海は海獸、魚屬、藻類の産實に夥し。

國後島には西南端に泊灣あり、船を泊するに足る、地味礫確にして、耕作に適せず、チヤチヤヌプリ山は、北端に聳ゆ、色丹島は其東南にあり、面積小なれども、良港多く、地味豊饒にして殖民に適す。

擇捉島は幕末近藤守重の渡航せしところ

擇捉島は列島中の最大なるものにして、長さ約六十里、幅廣き處は十里に達す、紗那は碇泊に便なり、得撫島は其東北にありて、地味肥沃なり、其間の海峽を擇捉海峽とす。

新知島は千島列島の中央に位し、東北に一港あり、ブローンといふ、水深けれども、灣口淺くして、船を容るゝに難し、捨子、古丹島及温禰、古丹島は其東北にあり。

緹筵島は温禰、古丹島の東北にある大島にして、長さ三十里、幅平均十四里、オットマイ港は其北端にあり、占守島の片岡灣に對す。

占守島は我國の最東、イギリス國グリニツチより東經百五十六度三十二分に位し、千島海峽に依りて、カムチヤツカ半島のロバトカ岬に對す、其間僅に三里、本島には、報效義會

員郡司成忠等移住して、開拓に従事す、阿頼度島は其西北にありて、本邦の極北(北緯五十度五十六分)なり。

産業

水産

林産

農産牧畜

鑛産

製造品

(産業)

本區は開拓日尙ほ淺く、産物未だ多からざれども、天然の富源は水陸共に甚だ豊饒なり。

水産は海内比類少く、鯨、鰻、鮭、昆布、鱒等を主とし、獵虎、膾、臍等も多し。

北州は林産に富み、蝦夷松等の森林多く、建築工業に適す。農産は大豆、小豆、麥、馬齡薯、甜菜、蕎麥、藍、大麻等にして、林檎、梨等の果實も亦多し、山野には自生の桑樹あり、以て養蠶をなし得べし、牧畜は到る所に行はれ、就中日高等を最とす。鑛産は石炭を第一とし、殆んど無盡藏と稱せらる、これに次ぐを硫黄とす。

其他製造品には製麻、砂糖、麥酒、罐詰等あり。

第四章

南區

南區は琉球群島と臺灣島及附屬の諸島を含む。琉球群島は九州の西南海上に並列せる、大小五十餘島より成り、面積は百五十七方里、沖繩縣廳を置きてこれを管轄す。臺灣島は其西南に位し、西は臺灣海峡を隔て、支那の福州に對し、南はバシー海峡によりて、合衆國スペイン領のフィリッピン諸島と相望む、面積三千二百七十方里にして、畧ぼ九州本島に等しく、臺灣總督府これを管轄す。

琉球群島。(沖繩縣)

大島列島の輿論島より、南西の諸島を總稱して、琉球群島

こなす、島勢自ら分れて、沖繩及び先島の二島彙となる。

諸島通じて山多く、地味は肥瘠相半し、海岸は海灣に乏しからざれども、暗礁多くして寄泊すべき良港なし。

氣候は終歲溫暖にして、寒さを感じず、然れども海風常に涼氣を送り、盛夏又甚だ堪へ難きに非らず。唯恐るべきは、毎年八九月の候に、颶風襲ひ來り、非常の害をなすを例とす。

沖繩島は琉球群島中最大のものにして、長さ凡四十里、幅廣きところは八九里に及ぶ、全島を國頭、中頭、島尻の三分に分ち、更に幾多の間切に分つ、沿岸は岬灣多く、極北を國頭岬といひ、極南を喜屋武崎といふ、北方に運天港あり、頗る良港の名あり、西南に那覇港あり。

那覇區（人口四万七千）は沖繩縣廳所在地にして、此港は

清國に限る特別輸出入港なり、市場は常に雜沓し、商業甚だ繁盛なり。輸出品は、砂糖、泡盛酒、飛白、輸入品は米、石油、茶等なり。

此地より東一里許の處に、首里區（人口二万五千）あり、舊藩主尙氏の居城地にして、現今第六師團の分遣隊駐屯す。

本島の四周には、許多の小島散點し、久米島、伊平屋島等稍著はる。

先島島彙は又宮古及び八重山の二群島に分る。

宮古島
先島諸島は西部標準時を用ふ

宮古群島。宮古島は、沖繩島の西南凡六十六里にあり、宮古島彙中最大のものにして、近海に暗礁多し、其西岸なる漲水港は、漁船を寄すべし、數多の屬島ありて、永良部島を稍大なりとす。

石垣島

彼照間島は琉球群島の最南に位し、與那國島は最西端なり。

南區

一六八

八重山群島。石垣島は、宮古島の西凡二十六里にあり、良港に乏し、西表島は其西凡六里にあり、沿岸峭立して、舟を入るゝに便ならず、これより西方に與那國島あり、南方に波照間島あり。

琉球群島の産物は甘藷を最とし、島民これを常食とす、甘蔗は夥しく栽培せられ、砂糖の製造盛んなり、藍も亦多く、琉球飛白の名高し、其他泡盛酒、上布、芭蕉布、漆器、疊表等を名産とす、沿海は水産の利少からず。

臺灣

臺灣は臺灣本島及屬島より成る、我國の版圖に入てより、日尙淺く、殊に東部一帯は殆んど生蕃地に屬するを以て、調査未だ十分ならず、隨て詳ならざること頗る多し、現

今全島を分ちて三縣三廳となす。

區域

臺北縣。臺中縣。臺南縣。宜蘭廳。臺東廳。澎湖廳。

山系

臺灣の山の高さは未だ詳かならず

(山系)

本島は南北に長くして、東西に短く、中央より稍東に偏して、一條の大山脈、南北の方向に連る、これを臺灣山系と稱す、臺灣山系は數多の並行山脈より成る、山脈中、最も著しきものを、シルヴァ山脈とす、シルヴァ山(雪山)は其中の高峯にして、高さ凡そ一万三千尺を超ゆ、此列の西にこれより低き山脈あり、これを新高山脈と稱す、新高山脈の南部に於ては、非常なる高度に達し、高さ一万四千尺を超ゆるの峯あり、と云ふ、新高山の稱あるものこれなり、支那人はこれを玉山と稱し、外國人これをモリソン山と稱す、新高山脈

南區

一六九

の西に尙低き山脈あり、其高度五千尺以下にして、生蕃地の區域をなす、これを蕃界山脈と稱す。

蕃界山脈以西は、次第に海岸に向て傾斜し、沿海地方は廣大なる平野となる。

又シルヴィア山脈以東にも、平行せる山脈あれども、西側に於ける如く著しからず、而して東海岸は峭壁懸崖に終るところ多し。

臺灣山系は高峯に富むと雖、雪線に達するものを見ず、シルヴィア山脈は重に白色の石灰石より成り、雪白の肌を露はすを以て、遠望すれば積雪の皚々たるが如し、故に支那人これを誤認して積雪となし、因て命名して、玉山、或は雪山と云ふ。

モリソン山とは臺南に往來せし、イギリス國の一商船が、これを遠望して其船長の名に取りて、命名せる所にして、西洋の地圖は皆此名を用ふ、此山は黒き粘板岩より成る。

基隆、淡水の近傍には、大屯山彙あり、其最も高きは三千尺以上に達す、何れも火山性の山岳にして、就中、大屯山の絶頂には噴火口ありと云ふ。

(水系)

シルヴィア山脈は、主なる分水界をなし、以西の

ものは、西流して臺灣海峽に入り、以東のものは、東流して太平洋に入る、島中に大河と稱すべきものなく、唯北部の淡水溪は稍大なれども、河口には砂洲ありて、大船を通ずべからず、南部には下淡水溪ありて、灌漑に便なり、其他大甲溪、濁水

溪等、稍名を知らる、湖沼は各地に散在すれども、大なるものなし。

本島の河流は、乾燥の季節に水乏しく、或は全く涸れて河床は通路となることあり、故に従來河川の稱を用ゐずして溪といへり。

淡水溪は源をシルヴァ山に發し、新店、基隆二流を合せて海に入る、上流は即大姑溪にして、急湍多し、臺北は此河の灌域にあり、滬尾は其河口にあり。

下淡水河は鳳山の東南にあり、其流域頗る廣く、河口に東港あり。

臺灣の川は皆峽流にして、谷は皆峽谷なり、河底深く岩を刻み、山上の人は水底を見る能はず、河中の人は山上を見る

臺灣の河に沿ふて山道を開くことの困難なる所以

臺灣の河に架橋の困難なる所以

沿岸

能はず、兩岸の勾配は極めて急なり、其水流一たび山脈の區域外に出るや、濁水横流し、平野變じて荒蕪なる河積となる。臺灣の南部は、熱帶圏内に入るを以て、降雨熱帶的にして、恰も盆を覆すが如く、且河床の勾配頗る急なるを以て、出水の急激なるは、内地人の想像の及ばざる所なりと云ふ。

(沿岸)

沿岸は屈折甚だしく、東岸は斷崖をなして海に入り、蘇澳灣のみ稍船を泊するに足る、三貂角は東北に突出す、これより西に基隆港あり、開港場にして稍良港の稱あり、富基角は本島の最北端なり。

西岸は砂濱にして、海底深からず、北方に淡水港あり、一開港場なり、南方に安平、打狗の二開港場あれども、何れも砂洲ありて、大船を泊するに便ならず、南端には南西岬及南岬あ